陵陽遺和歌集

上

後拾遺和歌集序

わか君あめのしたしろしめしてよりこのかた
よつの海波のこゑきこえすこゝのつの國みつ
ぎものたえす事なしあはれそ日のうちに
まつりことのいとまあはれにかなに花の春月の
秋あゆふにことはのそこくもあつくし道
みちくなんあからしまゝにこれなよりてちらく
ふかひとつこゝろあ人月よあはれをまつり風
あさくしもとても花をあはれにおもひ鳥
とわかれなまほしき事あし津の國御おもひ
せかまゆにまれし海の鹿まてうきあわなさせ
後撰事河り拾遺集よりいまたかきかたみれ
れりしきこえのもののはまわつらひかくし道
みんあかまつをあはれせとうけぬかれれまれ
ぬ河しみまよ男もこのをとをまつそ海らり
ゆふよのへつて事海しに志帝し志れ
あはれせんよりくあはひあつりとしとくら
事こゝれそう乃春秋まかりにいたる
應徳のちしみのとしれ冬男んあ月れ十日あまり
利のこゝろはひやうてのつきよえをかけり

いつれにもましさまてけたかきすかたのなれ
あはれをもひかれなりよ思ひ給へらるゝ
なれとものそれいつれもまよいそのうたのすかたは
多かることは古今後撰拾遺集よりのちの世の
ひとつものゝことく次第に次第につゝのこる秋のし
のさかりまてはなくわし後拾遺のさかりまて
まてあへることいふこさいまへいてまて
はうのたかにたかくわかへさまたてま天暦
の末よりかまいてまくまくせことろさわかまり
むかうさそしいかしこせわまりけんそろうり
かくともなよもつの後拾遺春ひとしくわかま
のとしもまてそ海のまゝこのうたまて
やまて家くれうのてあはれくつかりにまり
こゝとえんしふうらもくてこさのしことえ
さまてのさし侍あまれをと所ゝさ山かれ
おしきあまてみえ建わくしもうしすさ
秋の月のおりつ夜ては春の花の色の
わくもしちゝさてかりちとともあまりやさを
えしひくもまさまれともおまつまとく
後拾遺和歌集にいふあるそ古今後撰

[illegible]の集より奇[illegible]乃氣
[illegible]集とそもわらひ人きゝてなま
[illegible]のわらひきこえてもわれ
[illegible]のそしりひとつのいろの
ひくいひくうまれなりもれわら
いとゆゆしき大中臣能宣清原元輔源頼紀時
文時と聖城寺にまれなりこれをえ
[illegible]れ行[illegible]いけるひつれうる
人なりうまれ人のことをそしる
のみにとゝのひとりまいらまて先

ふつさんよりうまれいまてりまの人
こゝろこゝろとりこゝろとゝ
しとゝとゝりくらたゝ
[illegible]
のちんちゝふ[illegible]
人よりゝ[illegible]
この事[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の集にのせたる哥はかならずしもえらびさしつ
られたりあともこゝろとゞろ石のなかにも玉の
ましられることもあまたさもあやまちおほ
うたとゝろくのせたりこれうちよみける
のほすさきものたもとひくのあはれをなし
きゝつくしてたゞられせきさへちからなれ
あくのをさむ筆わりこの集をもてやつよなる
うらしもうれわろくさおほしてこのわかの哥
君くまのうらのあは海ゆふをとこうのでしる
なるれ村きくてもあきのとわつきうれあ

かたいとのこれ家々をわけてしげれる木乃
えだくれんかたとしてまれにえてつくれる
なれしかにたれわが身はこれあまりなゐ
くちをあかすれちまきてはあかしよもなるけ
あれたらせとはゆくともあもはるかに事を
あすひくなえてつかへしきてもとなりさく
たなすゑ風のまくまちかくひかりはか
わか身はうえても露ともきこえなをたえん
ことにようてもとの様すれ秋の萩はなく
そよのはくくとさりてのあすひとされ

後拾遺和歌集第一

春上

正月一日後伝行幸

小大君

いはのうへにまつもとしをのかさねてはみちゆくかぎりいはもこそせめ

光朝法師母

みちゆくかぎりいはもこそせめ

生年九十今八歳もとしをへぬ春をしらでもとしはかさねき

源師賢朝臣

春立日後伝行幸

春をしらでもとしはかさねき

摘後撰朝臣

寛和二年花山院御会

もろともに

大中臣能宣朝臣

春たちぬとのもとにかはるものはこのしたにのみ春をしるらん

いとどしくこのしたにのみ春をしるらん

人まてハ人めつゝ思ひやる年も山ちも越ちかき

山寺にまかりて正月に雪のふりけるを詠る

平兼盛

雪降て道ふみまよふ山里にいかにしてかハ春のきつらん

題しらす

加賀左衛門

都にハ春ハしれぬを月にこそ年ハくれぬとおもひしりけれ

天暦三年太政大臣の七十賀し侍ける屏風によめる

大中臣能宣朝臣

よろつ代を経へき人の若菜つむとや沢河に出る春ハ有けり

一条院の御時殿上人春の哥とてこひ侍りけれはよめる

紫式部

三吉野ハ春のけしきに霞めとも結ほゝれたる雪の下草

花山院の歌合に霞をよみ侍りける

藤原長能

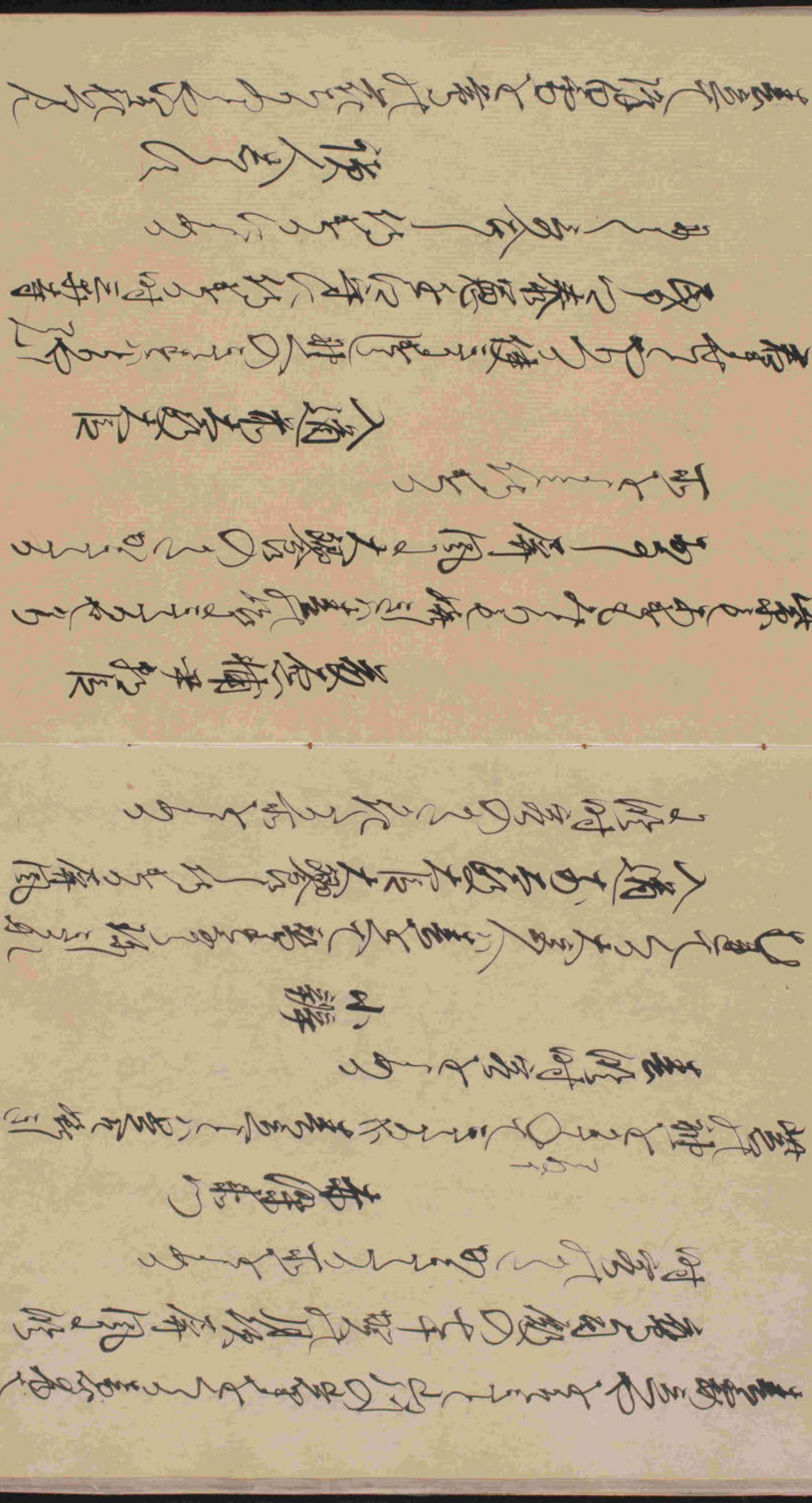
谷河の氷もいまた消あへぬに峯の霞ハたなひきにけり

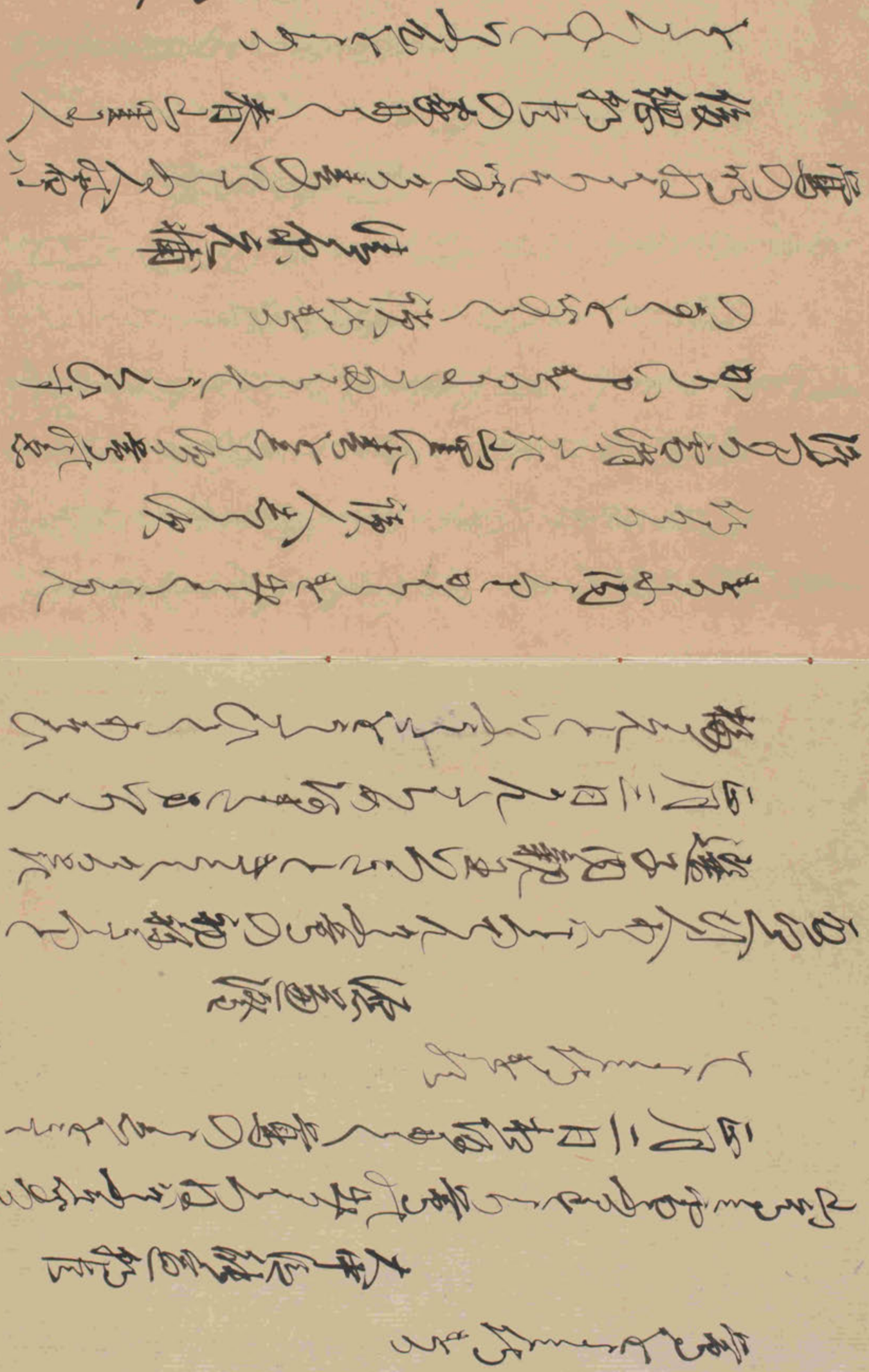
題しらす

藤原隆経朝臣

春きぬと人のいひしさの遠霞や立らん

和泉式部





尋つゝ花の春にゆかりまて花の咲つゝ春の
山路を春の夜の夢の中に行もの
もゝよもの人行もの

清原元輔

千年をふる春の日の松のみとりの中にあるより引て
野へ行

和泉式部

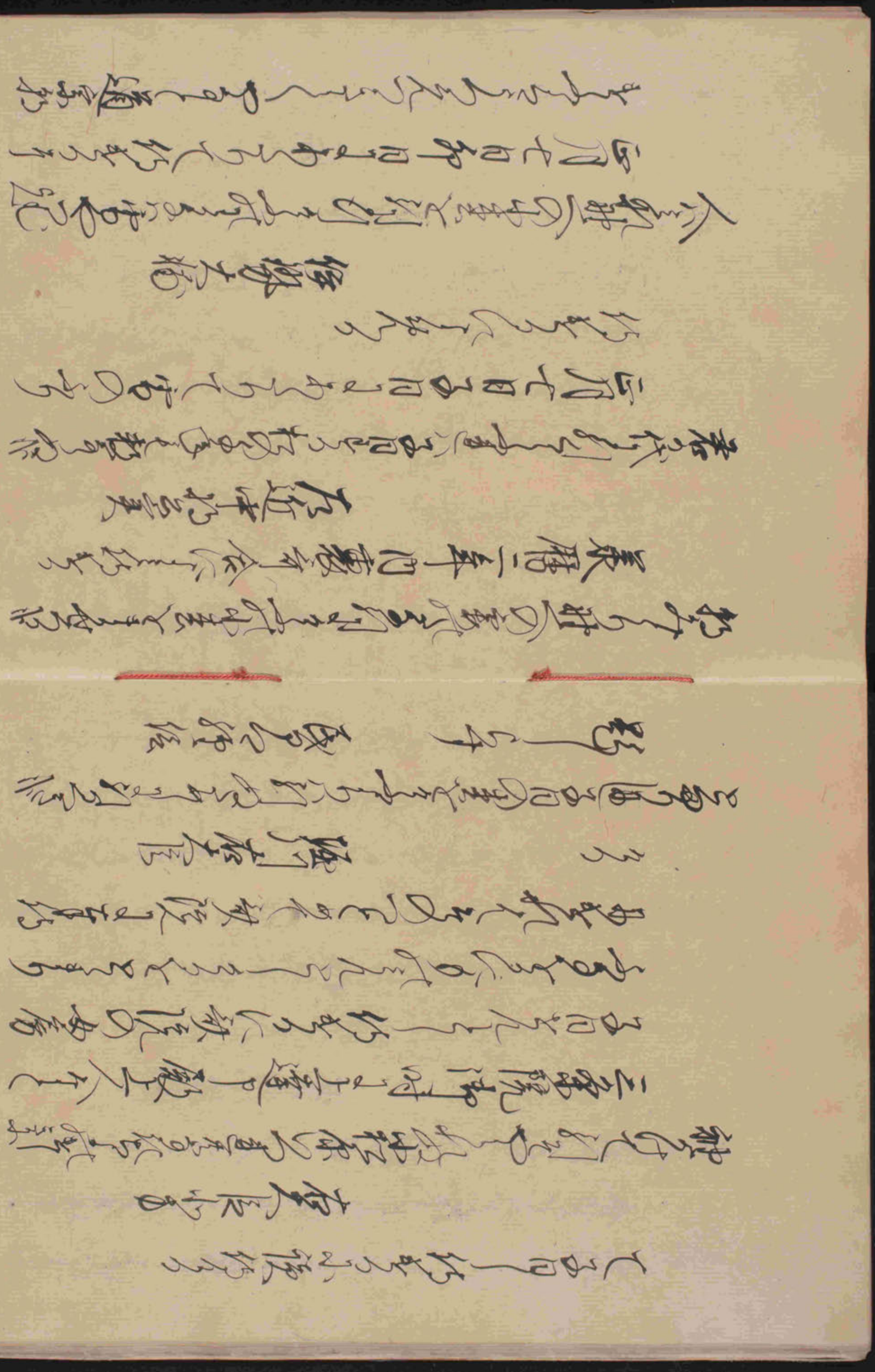
引まつの末の日数はかりなくて春の
四月の日春のありて松をしてはまし
ひとをもとめ行もの

みつね

義孝卿の子の日の松の枝のもとにやすらへる
四月の日にあらりて行ものゝ良暹
法師のもとへ子の日をおもしろ
いまいひとをせ行ものを
をせく日のもとれなくみくつ
ゝけ

咲成助

きゝ表に形のの人のまとを題
今上の御子にて上遊
うへのもとにまゐりて侍



[illegible]

[illegible]

大中臣能宣朝臣

[illegible]

和泉式部

[illegible]

後冷泉院時賀后宮歌合

中原頼成書

[illegible]

巻二位

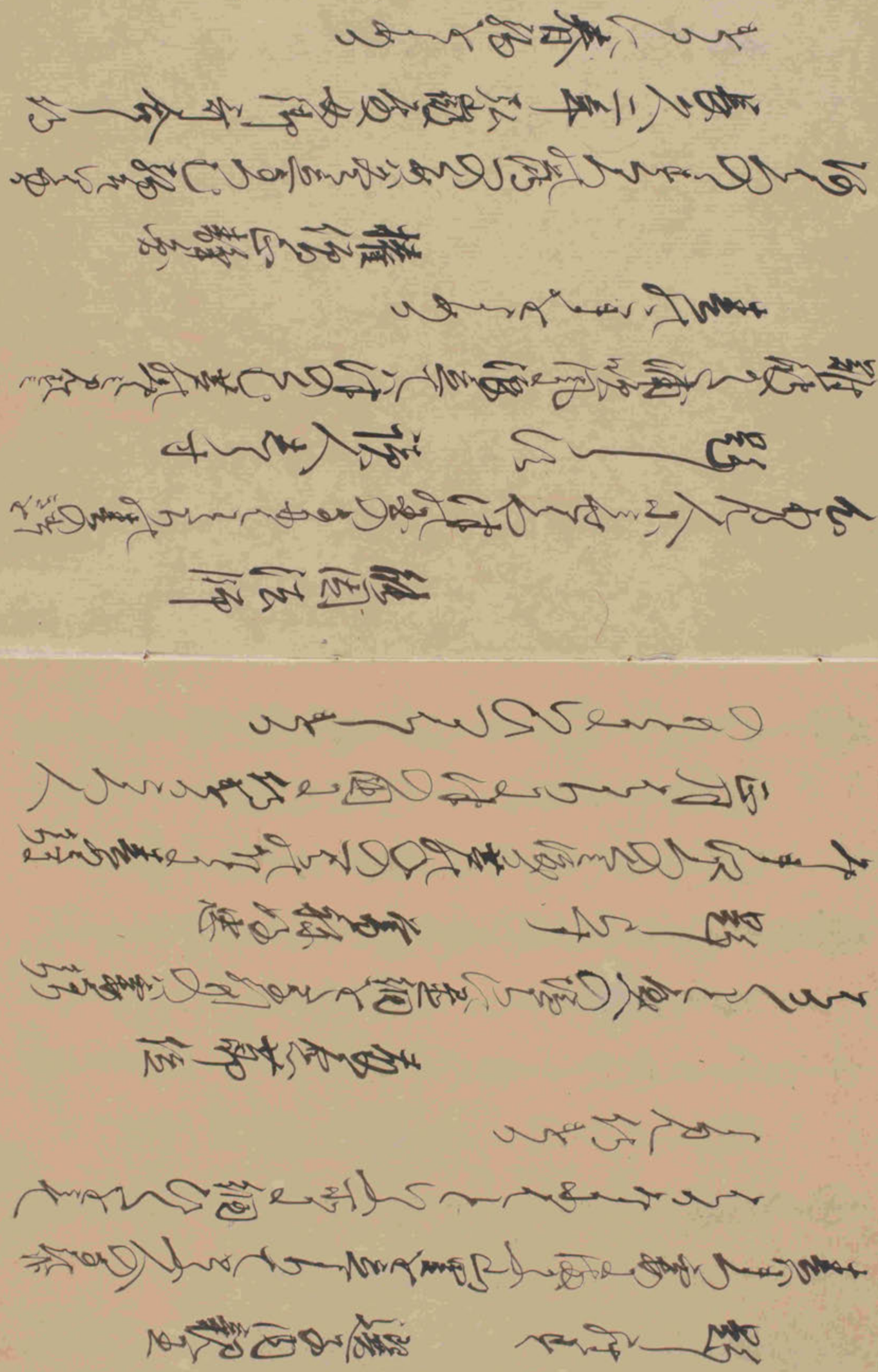
[illegible]

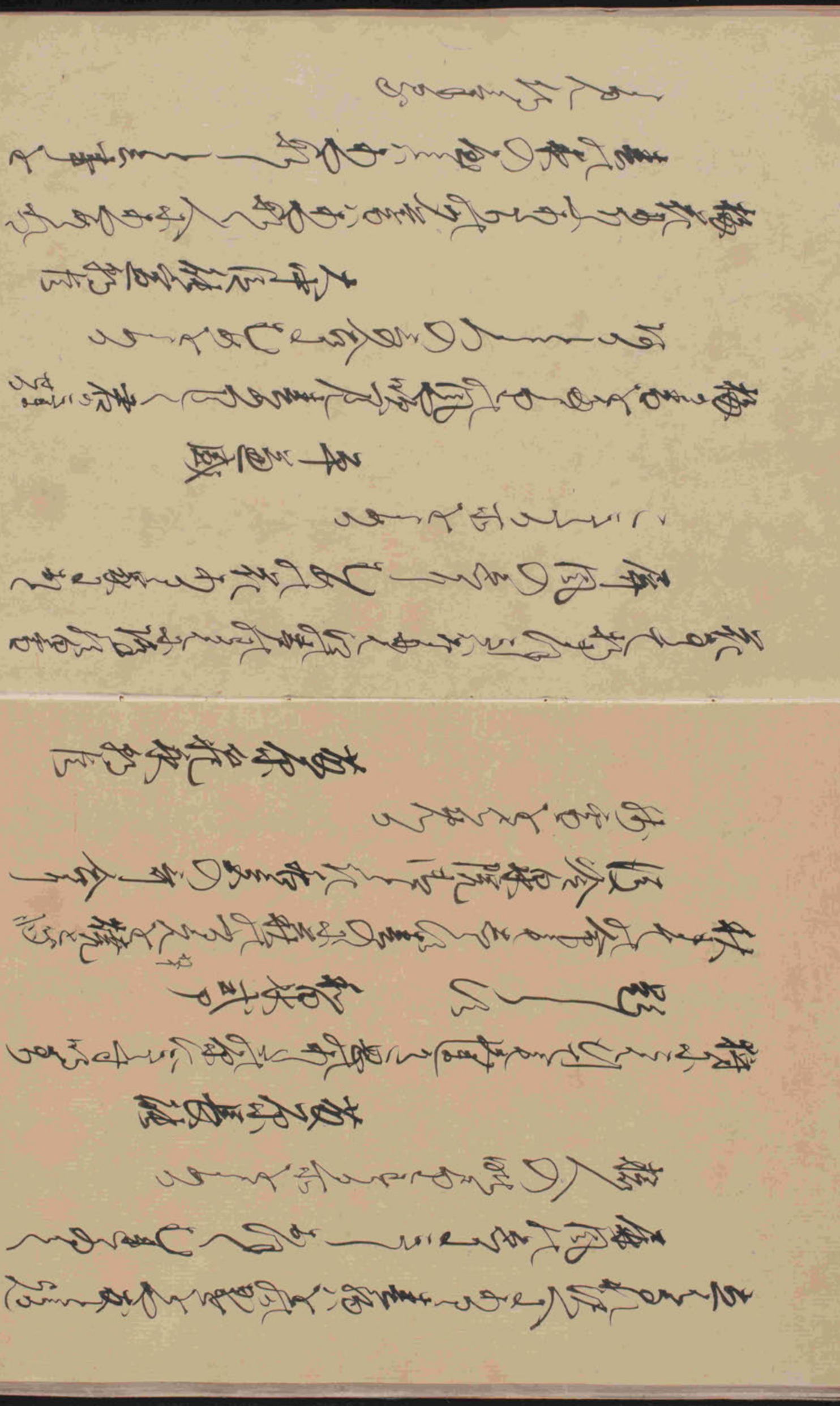
大江匡房

[illegible]

能因法師

[illegible]





前大納言公任

春の夜の闇にしあれはにほひくる梅より外の花なかりけり

題しらす　大江嘉言

梅か香を夜半の嵐の吹ためて槙の板戸のあくる待けり

村上の御時御前にて花をたまはせて女房
人々によませ給ひけるに

かはりてよめる　清原元輔

梅花の香はことことに匂はねとうすくこくこそ色は咲けれ

山里にとまり侍りけるに梅の花を詠る

よみ人しらす

我宿の垣ねの梅のうつり香に独ねもせぬ心ちこそすれ

題しらす　前大納言公任

我宿の梅のさかりにくる人はおとろくはかり袖そ匂へる

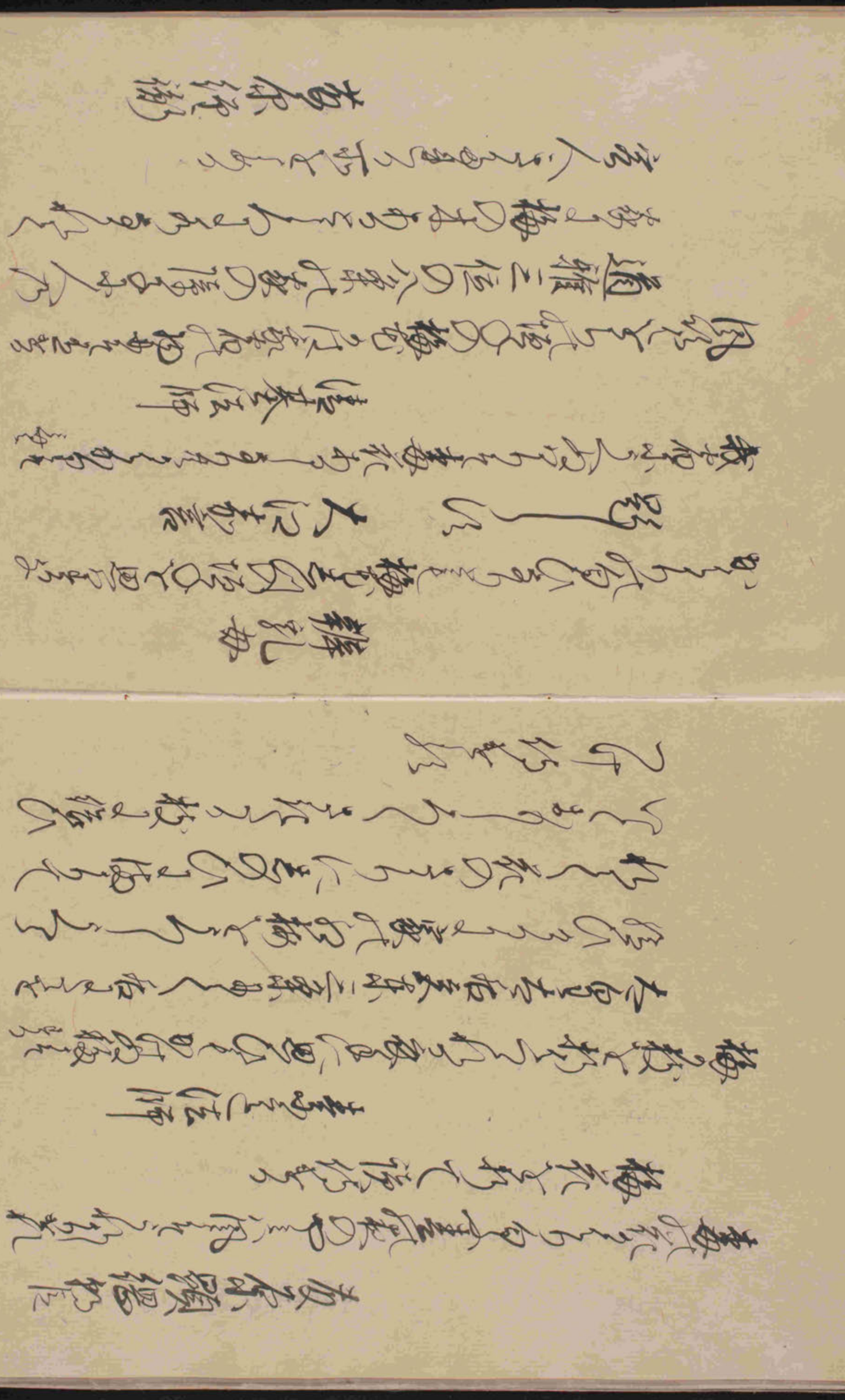
和泉式部

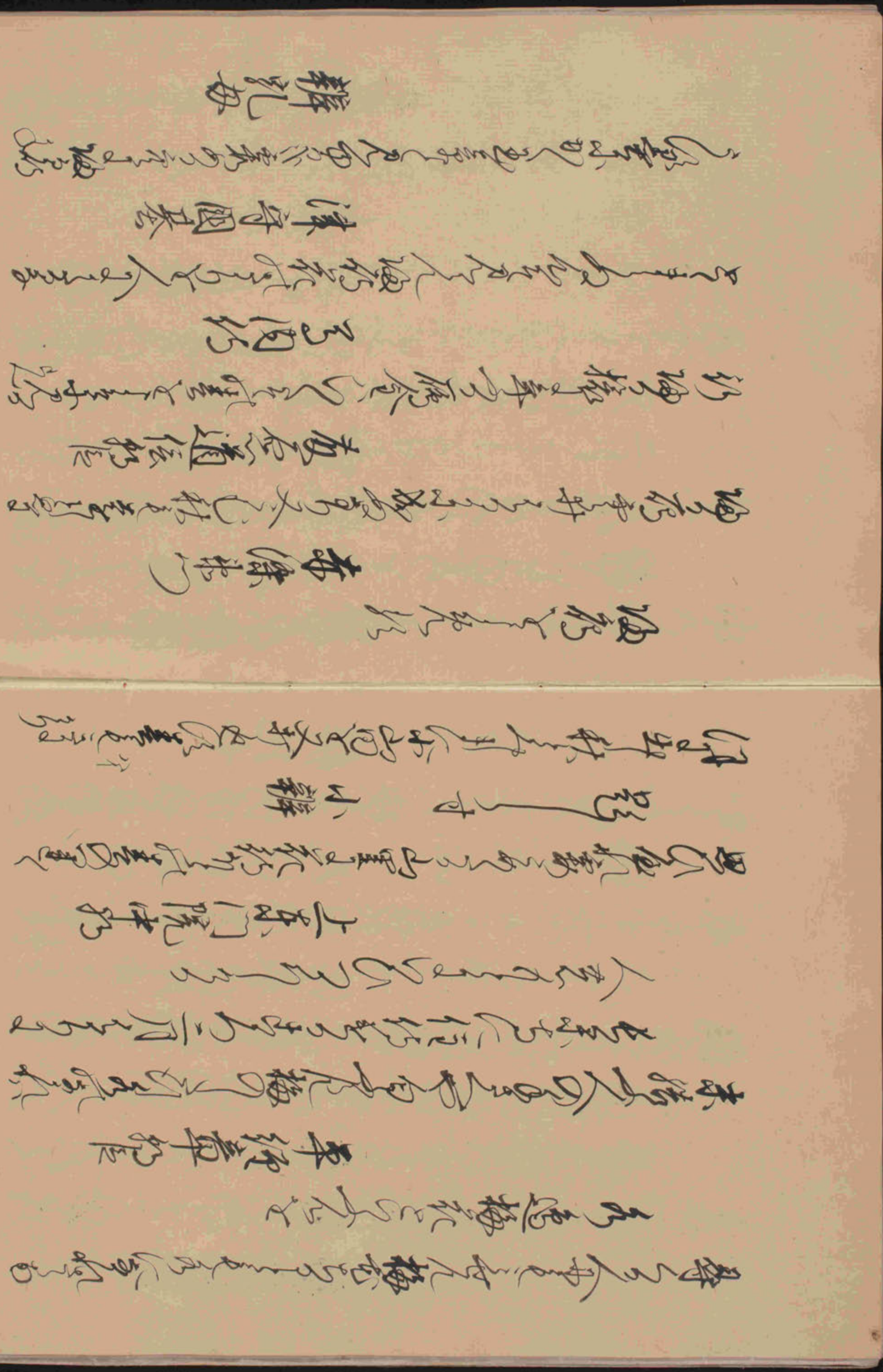
春はたゝ我宿にのみ梅咲はかれにし人も見にときなまし

山家梅花をよめる　賀茂成助

梅花垣ねに匂ふ山里は行かふ人の心をそみる

春風夜芳といふことをよめる





[illegible]

屏風に二月山田うつしたるところ

[illegible]

大中臣能宣朝臣

[illegible]

天徳四年内裏歌合に柳をよめる

坂上是則

[illegible]

[illegible]

藤原清樹

[illegible]

[illegible]

藤原元真

[illegible]

二月にうり良遍法師のもとにまかりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原孝忠

[illegible]

作りそへられけるとき

菅原隆徳朝臣

山梅花ふる道をたづねて人のもとにまかりける

二月のころほひ花ざかりに後徳大寺の

俊定の家にまかりもとめ侍りしかば

主のこころ作りそへ侍りける

宮内卿永範

うぐひすの身をなげうつる梅の花

花ゆゑ惜しからぬ命なりけり

とぶらひ侍りける人に作りて

小萩ちる野もせわけぬ山ぢかな

影ばかり寄

咲成助

梅花咲て散方と思ふ日の比ふきける

永源法師

梅のもと梅の花ゆゑ柳の枝をもとりまぜて

中原致時

ぬぎまつる尋にゆゑ山梅ぬれぬるまで人ぬぎ

一条院御時殿上の人に花ゆゑ

如月のころ

橘元任

源雅通朝臣

折はかりおもしていつ山桜ふきまくる春よみとさき

ゑし　盛かね

折らせてくるらにほれ山桜風に散さへおきさる句を

後冷泉院御時うへのをのことものこともたる

月よまかりて斎なりしよみくそきの

くられ更のはちにあそひて侍

ことはかり

一宮駿河

思ふるなくうはさそう花ありかる人よまされ色なる

今上の御時殿上の人々花見にまかりて

山寺のおくに中宮の侍さふらひける人

に歌よくつかうまつりしそ

右大臣北方

わくらんとおりは山桜あかる人よまくへてなむ

障子絵に花おほかる山里に女ありける家を

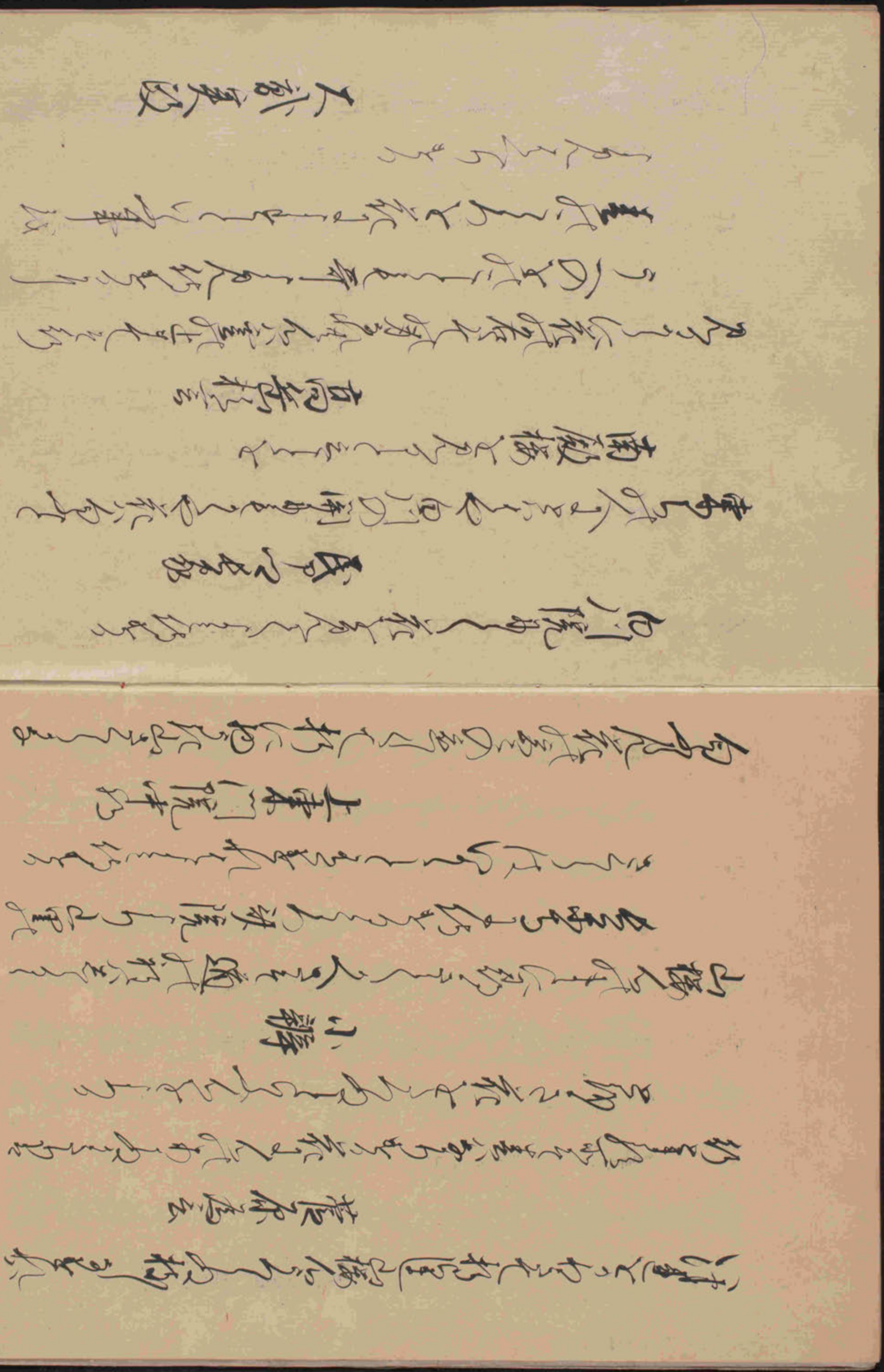
よみ侍りける

源道済

今さんと送人の家まくへは花の盛をまくさはしるも

ぬしらなは

祭主輔親



春毎にみるとはすれと桜花あかても年の積ぬるかな

花をおしむ心あるかな

大中臣能宣朝臣

桜花匂ふあたりに人ませは春をおしくも思ふかな

河原院あれてくるしき山桜見えて人にしらせす

平兼盛

道遠く春をもみても見んとて桜花をたつねてこそ見れ

夜出桜としいふへきかな

能因法師

桜咲春はいつもかくならは夏ふる枝は思ひやらまし

桜さくらくちるをもかゝりけり

かくれしもかなし

よみ人しらす

植しとき人なにおもひし桜花色かはらねとしらすなりにし山の

桜とみるをかなしかりけり

いせしらす

故人いふそかへてさくもしらん日の山桜さへみえそめける

能因法師

人をみんために桜を植つれは花まてもけふは見ましや

我宿の桜ハかひもなかりけり主からこそ人も見にくれ

道命法師

花見にと人ハ山へに入ぬれハ春ハ都そさひしかりける

紫式部

年を経て都遠山さくら花の所の私まつりをそし

さけりしき事ふもろ人の花を見んとく

よめる

藤原公経朝臣

花見んと八月にいつる事も忘れぬ春ハ深山の遠きえ

堀川右大臣の九条家にて毎山花

見えし山の空をも見つゝ行んとするを

権中納言経基

我宿の桜ならねと遠山の霞に春ハこゝろなりけり

藤原元真

思ふ事ありてこそ見し桜花春ハ緑に成ぬれしかハ

天暦二年内裏哥合によめる

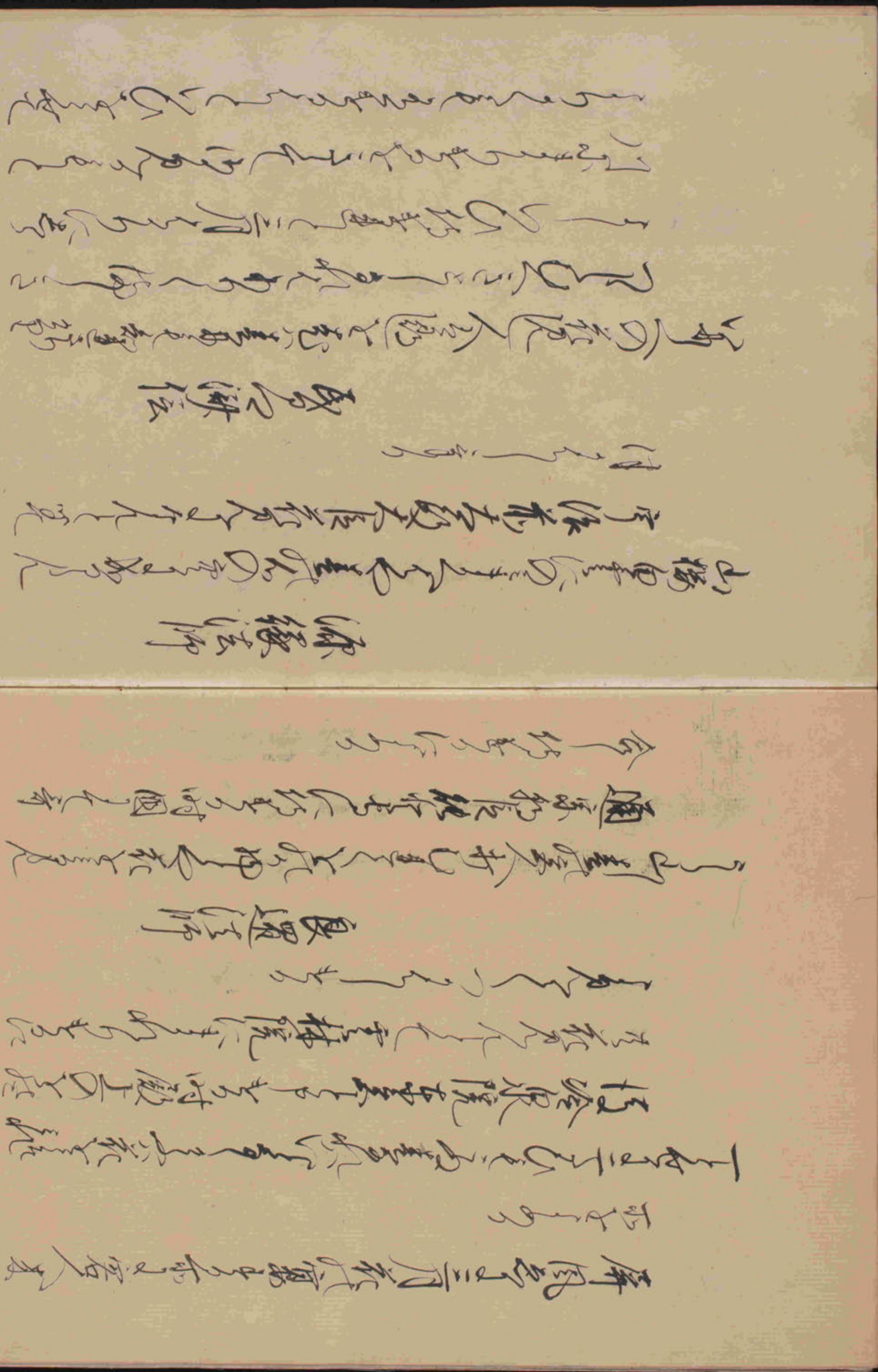
右大臣通俊

春風ハちらさぬ桜とはしれといひそはなと風吹しとやさそ

屏風に旅人花見たる所

平兼盛

花ちらし家路におそく海の面ゆく時ハいとゝ旅の空



行きとしに見る花

中納言定頼

梅花さそふ山ぶきの花の間をまがふ春風

三条前内家にていとしのとき

坂上宗成

金谷にをしまれし山吹の花ゆえ散るとしてしも花とみるかな

源俊頼朝臣

春毎に咲きもあらなん山吹の花咲ける陽院の花さかりにたのひく春の

の山の花見てまちくらしたれ人の行末

大夫たちこつをきくこの程いまこの

ちかくなりしとひさしぶりに

内裏に行くさきにて

行くしたくなりしとも

見行きて

前関白法師

世中を思ひ捨てし身なれども

是をうきてたゆたひしとも

てうつをぬけて行きてみる

見まほしさにまかりくたりけるに大まうち
きみのかきのもとにて思ひ出て花
永承の頃のみやこふつくりしけるに
まゐるを我もしれぬや桜花昔の枝をもちて見し
其をくの下の女房花見にまかり
て[illegible]りしもあらぬ

伊勢大輔

何事と春は思ひ過白河の花見む人とはゞ
うちの大まうちきみの家のかくて
さけのみしもしらふれとよめる

大江匡房朝臣

高砂の尾上の桜咲にけりと山の霞たゝすもあらなん
をち山桜しつかにあらんとよめる

藤原清輔

吉野山八重立峯の白雲にかさねてみゆる花桜かな
よそにのみ見てやはこひんとしもうつり
家の花おしむ人しも見ん行末に
しあれ

藤原通宗朝臣

思ふこそさきに遅桜ちりての後の世は盛かな
花のちるまで見ん事をさきとしいふ

[illegible]

[illegible]

良暹法師

春長中納言家に山桜を植えて遣はされし
布引の滝に二度山桜をたづねしに
見えざりしかば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源道濟

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

中務卿具平親王

後拾遺和歌集第二

春下

三月三日より式部卿花を折りて

花山院御製

見ちらすべきかりきる色をかをもとめて鶯

天暦御時の屏風のえにわりきる

ところをとめり

清原元輔

わかさくらちるまをしらぬ春風に

世をうぐひすのなりぬるかな

生羽辯

為忠花の比いかに世をすごすとて

永承五年六月祐子内親王家歌合

しげきやどに人ぞ

後拾遺

藤川摩良

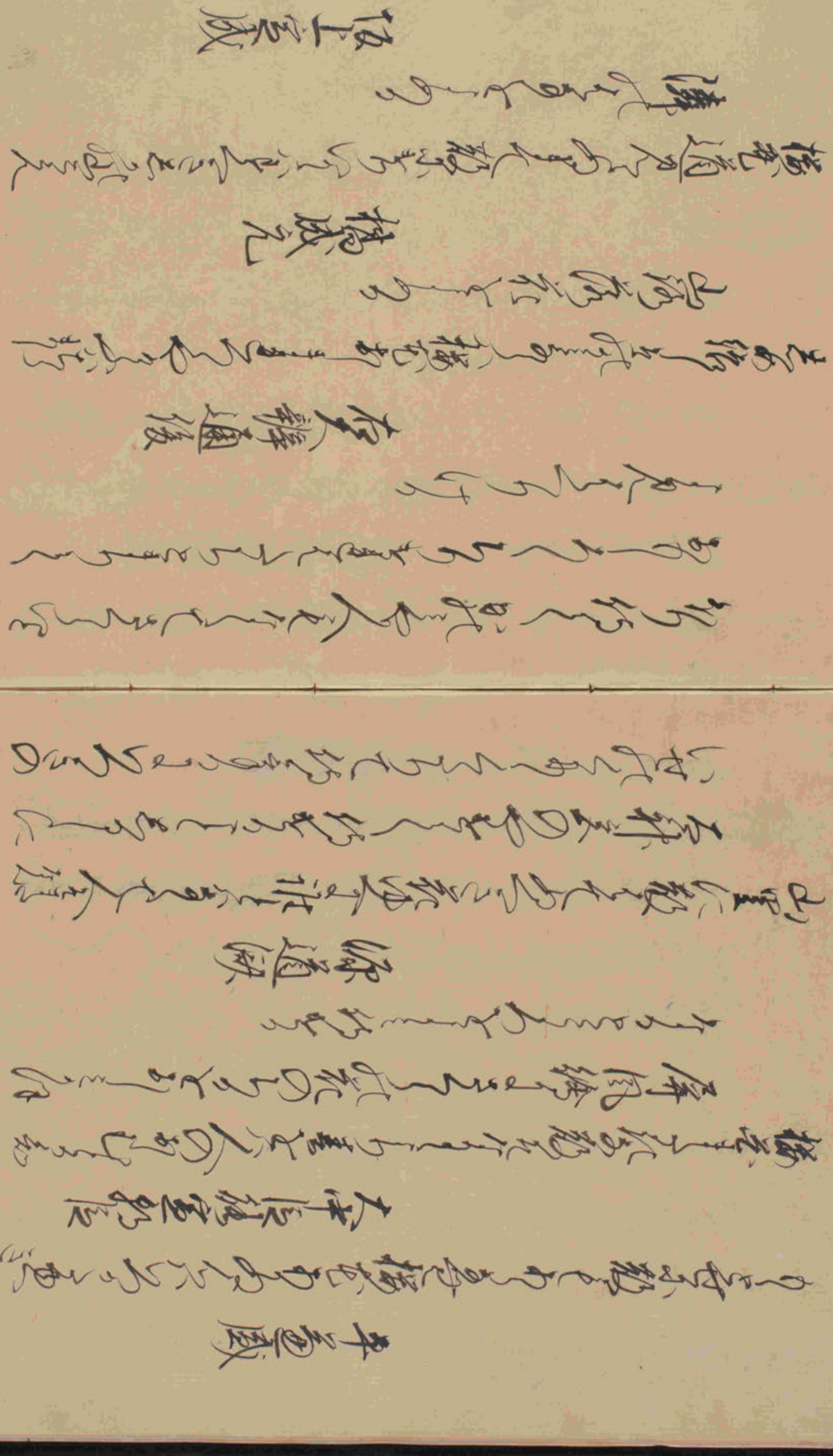
櫻花わかれをしぬ思ふ人ぞ

影しきす

同大良

初瀬詣をしまりの花を見ん人に行

天徳四年内合



[illegible]

花の庭ふるりく行もとりてもあり

清原元輔

花の落てまくあさとを衆鶯とうぐひすとて

義孝二年四月裏行事歌合

とうぐひす行方

[illegible]

藤原通家卿

影しるしす

[illegible]

永源法師

三月ばかりに花ちるを見てくらの人行

[illegible]

出雲門院御歌

[illegible]

永義六年六月五日祈雨歌合の歌

[illegible]

大武三位

[illegible]

中納言定頼

[illegible]

[illegible]

大江嘉言

よにこそ人もみえけれ桜花ちらぬまてのよ[illegible]
白川のなかれのいとくやしけれ[illegible]
しみえくりける

土御門右大臣

行末も花とみゆるや白川の[illegible]そとをみえて春[illegible]

藤原為時

ちれはこそ咲へき花ハ咲ぬらめ身をはなれぬひとの[illegible]
庭よりくる代のならひ散て行春ハよめる

和泉式部

風ふきもさかぬ手ハ庭桜散るとも春はのこさなん[illegible]

三月つこもりに春の暮とゝ行春

藤原義孝

春くれはやよひ時の空までもなこりなきつる[illegible]
つくしよめる

和泉式部

岩ほしめりてそみえけるせこゝろ絶[illegible]

藤原義孝

わかるゝこの[illegible]見えてかへるさきれつるの[illegible]
月輪といふ所にて元輔恵慶等よめる

[illegible]

[illegible]

大中臣能宣朝臣

[illegible]

[illegible]

源為宣朝臣

[illegible]

大弐高遠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

良還法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法円法師

[illegible]

後拾遺和歌集第三

哀

月はいとちのひかりあり　和泉式部

櫻をみて　藤原明衡朝臣

四月一日郭公を待ちいでたる

鳴くもまちえぬ花をもしたれば郭公

待つの間のこころ　藤原清輔

我宿の梅の花ふりける時

冷泉院の東宮とおはしける

ときの年に　源重之

友まどはしてとりあつめる時

郭公　常縁

梅ちる月夜　藤原公

山里の月を見て

八重むぐらかくれにしかどもいまもなほ　大中臣輔弘

山里の卯花をよめる　大人行盛

行くえなくなりぬる人の卯花山里に我のみなりと咲る卯花

民部卿泰盛を伴なひて行盛の時三月ばかりに行会て行盛うのくれを語る

白浪の立てしらべて卯花咲る波の花

月新を見て咲る卯花わきてなれのみ清き

わすれず行会て行盛に卯花を

大中臣能宣朝臣

卯花の咲るわすれぬ時ハ

西宮殿の家に卯花咲て

のさしをしてをさ行盛に

行盛

見渡ハ波の花とぞ見る卯花咲る西の里

侍従大納言

卯花咲る垣ハ白浪立田の川の水を花とぞ

卯花とぞ見る行盛

雪のこゝろをまもれて和歌をこゝろ[illegible]
はるゝの大山寺にいたりて所[illegible]
行きやすらこゝろ[illegible]

源道湖

元暦文法師

我[illegible]法[illegible]なる[illegible]
影[illegible]す

[illegible]花法師

[illegible]我[illegible]
[illegible]月はこゝろの日[illegible]近のる[illegible]時
こゝろ[illegible]

[illegible]
[illegible]

源[illegible]

[illegible]
道命法師山寺[illegible]

[illegible]原[illegible]

[illegible]の[illegible]

道命法師

[illegible]の山[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

時秋院より行もとの人のもとにしてと
おもひいそぎまつりのこゝろの日ゝに
よつてもとの

皇后宮みゆき

竹とりのおきなの時のうたの音の声と
琴のつらひてうんちよう行もとに人へ
ありしかとひとりのひ行もとと人
義もを房乃てに行ちうきれつゝて
もとの

新古今のうちそこそもとうられ多の御歌

備前曲行

月ゝにうりわたるまのゆきうち行く
四ちとせんこゝろつと人のいひとゝせて
行もれて

大中臣能宣朝臣

ゆゝしくそ君のこゝろもん絶能ちひる我山ちもとも
いまゝをこゝろつ事行もちうの年
ゝゝ新古とうてゝあり

僧正遍照

この比新てのゝゝ行時ちとて林のゆきうせ
ゝ

橘資成

[illegible]

永享六年七月六日於[illegible]殿[illegible]家[illegible]

会[illegible]

伊勢大輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大江広資朝臣

東海の四そをふん郭公あひきの声

郭公とこふくるかな

法橋慈命

[illegible]

[illegible]

長保六年五月十六日入道右大臣

家所会に遍照寺にて

大江為言

[illegible]

[illegible]

道命法師

郭公鳴くこそ聞くなれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

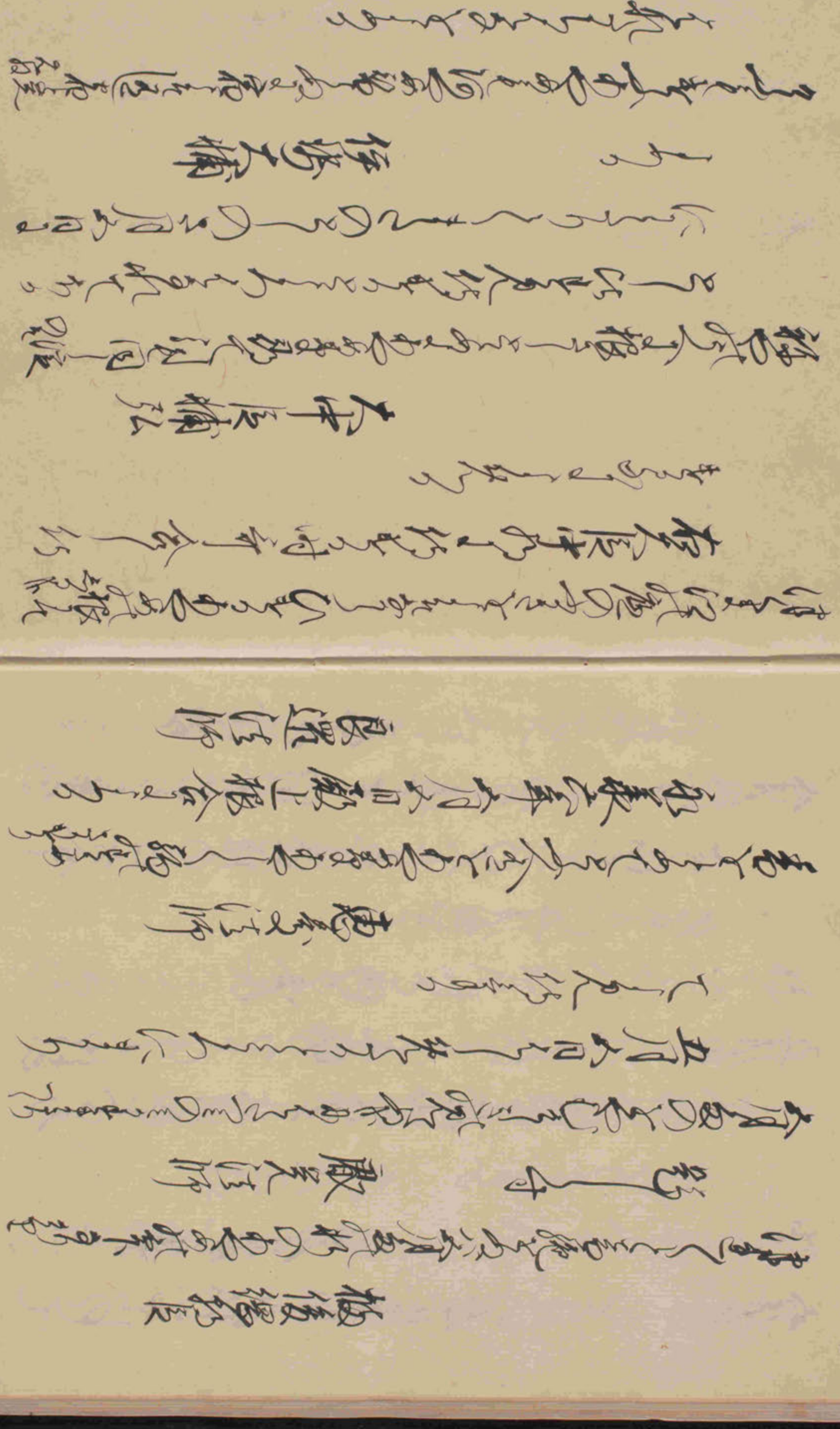
律師長増

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

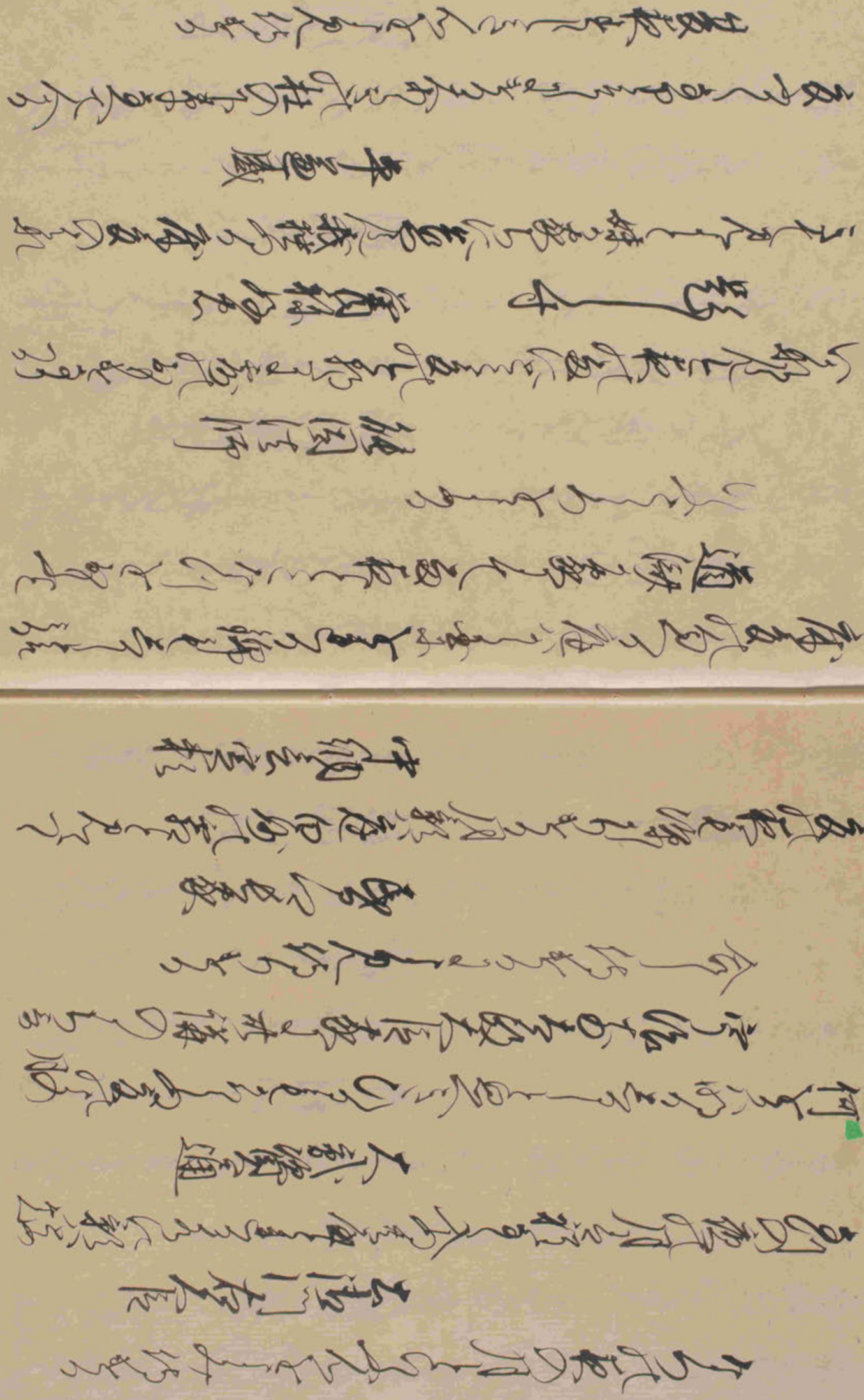
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

播川左大臣

[illegible]人[illegible]れて秋[illegible]

[illegible]の[illegible]明の月[illegible]

同大臣

[illegible]の[illegible]の月と[illegible]秋[illegible]

後徳[illegible]

[illegible]を後[illegible]

源[illegible]

[illegible]の[illegible]秋[illegible]

屏風の[illegible]

[illegible]

大中臣[illegible]

[illegible]秋[illegible]

[illegible]

源師賢[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]

伊勢大輔

[illegible]

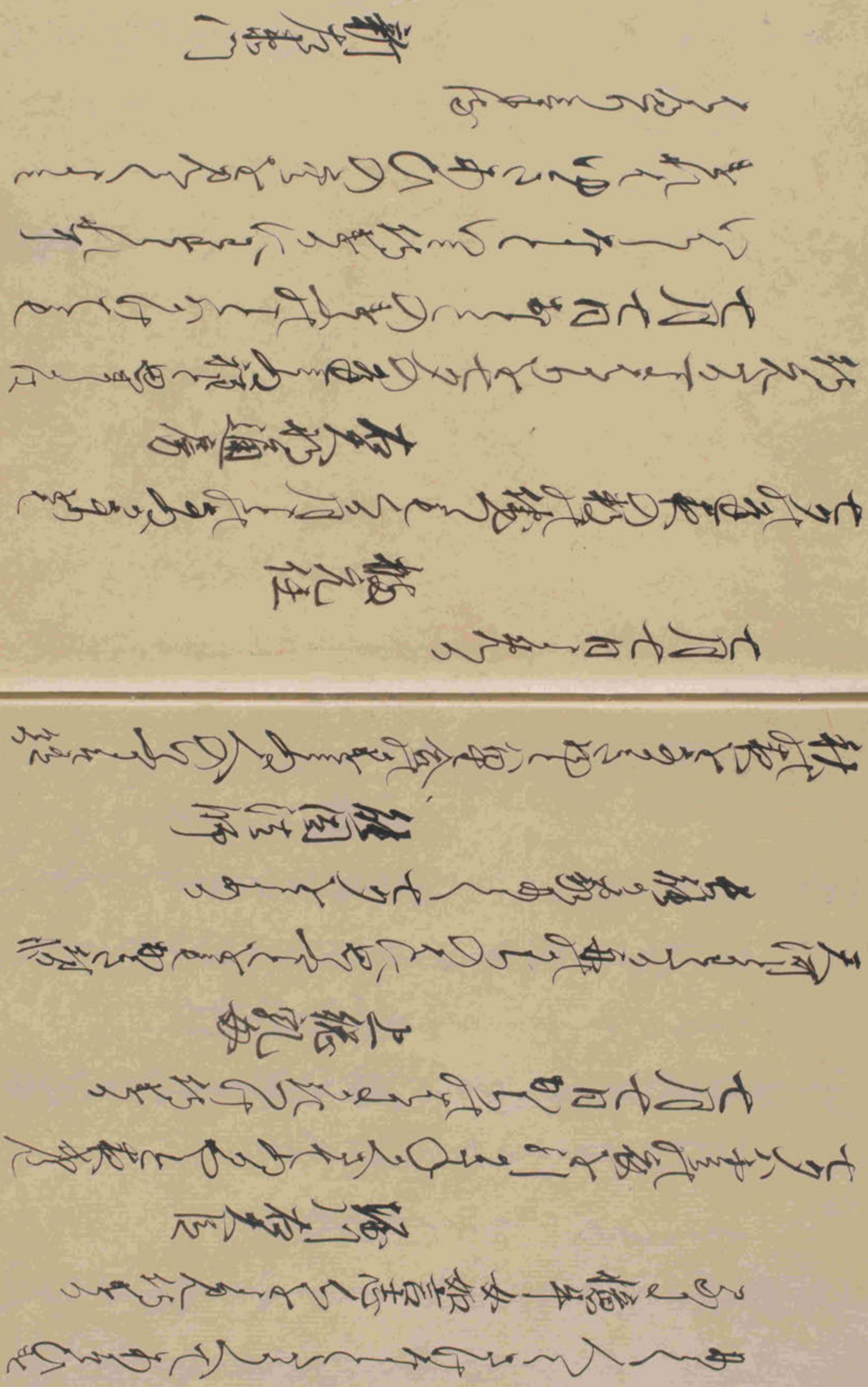
後拾遺和歌集第四

秋上

[illegible]

[illegible]

[illegible]



三月十八日せんたいはれ星ふるをと
七月七日風なしていてくこうくう勝院
ようようまつりまつる八月三
あつさにあたりてまつり行もの
ようようなり

小雜

ようようなる事ともも七夕ようようなる
若易物到者ようをとり行もの
若狭国遠敷郡
いそうつ我ようようまつ山里にいつかとあつ秋の月を

宮仕月末ようようのようのあと
ようようみ行もうあり

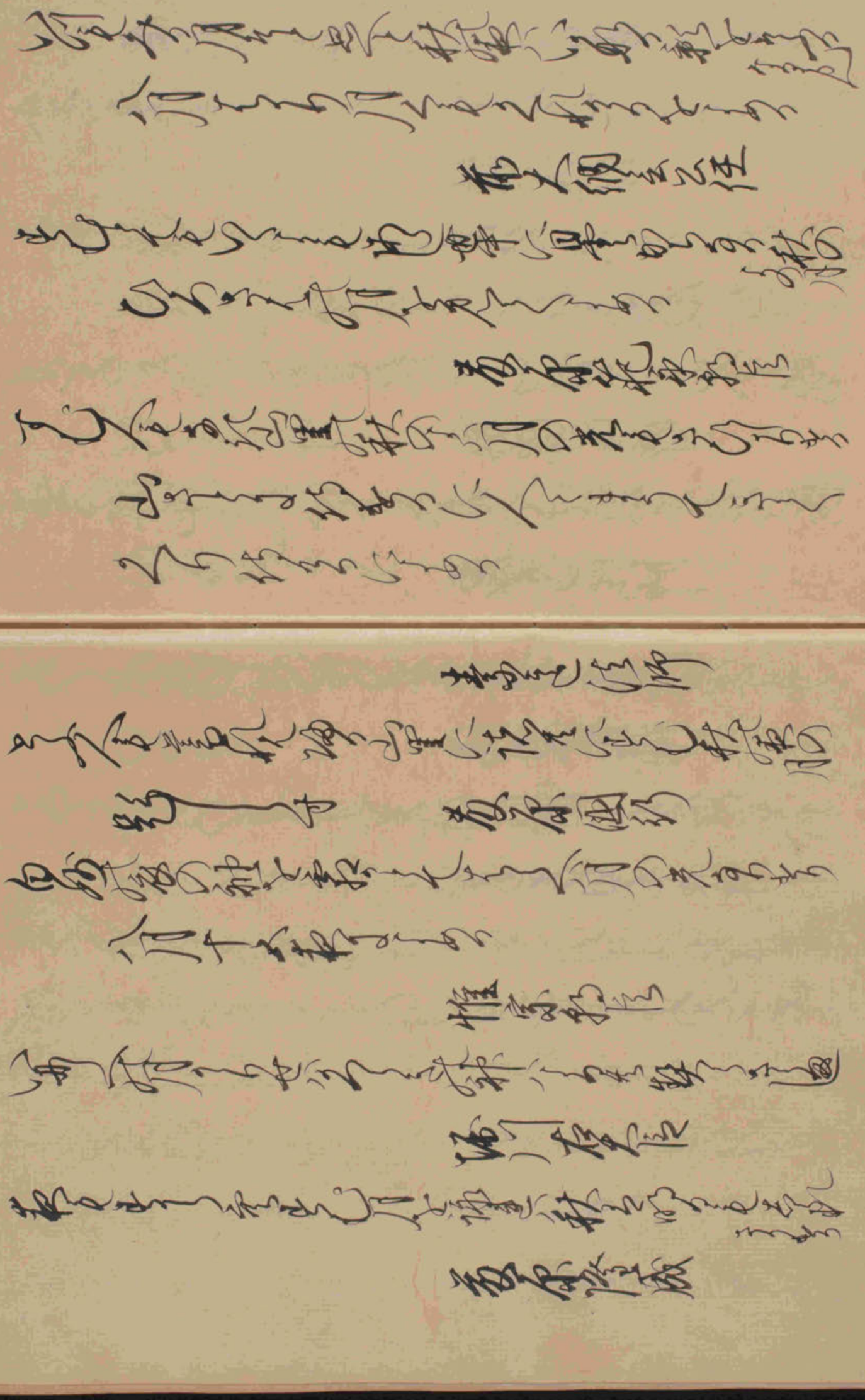
左近中将公実

三月十八日ようひう秋ハ月ようようなる行
花山院東ようもう時国院ようの
侍て秋月ようくあひ行
ようようなり

大納言為

牧の月人ようなる
三条大臣大長

人々に所にて者十六人を
えらびて文作らせられける上の
秋月とりてこころをこそ作りけ
平道盛
まうけなく西をうちながめて光を添う秋の月
出御門右大臣家にて会に作る
秋月をよめる
大宮殿の光あらそはれまれの梅戸も秋八重
河原院にて文作る
源為長朝臣
ちぎりなき花の人をまねきかへして新しき秋の月
影
藤原法師
月をみる人八重山にあらねども秋の月山にあるこの人を隠
くもりなくこの秋南殿の月を
ながめて文作る
源道済
金水亭雪にて文作る時も秋の月出でぬれば
寛和元年八月十日裏に会に
文作る



[illegible]

[illegible]

[illegible]

道命法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年為國

[illegible]

[illegible]

大江匡衡朝臣

[illegible]

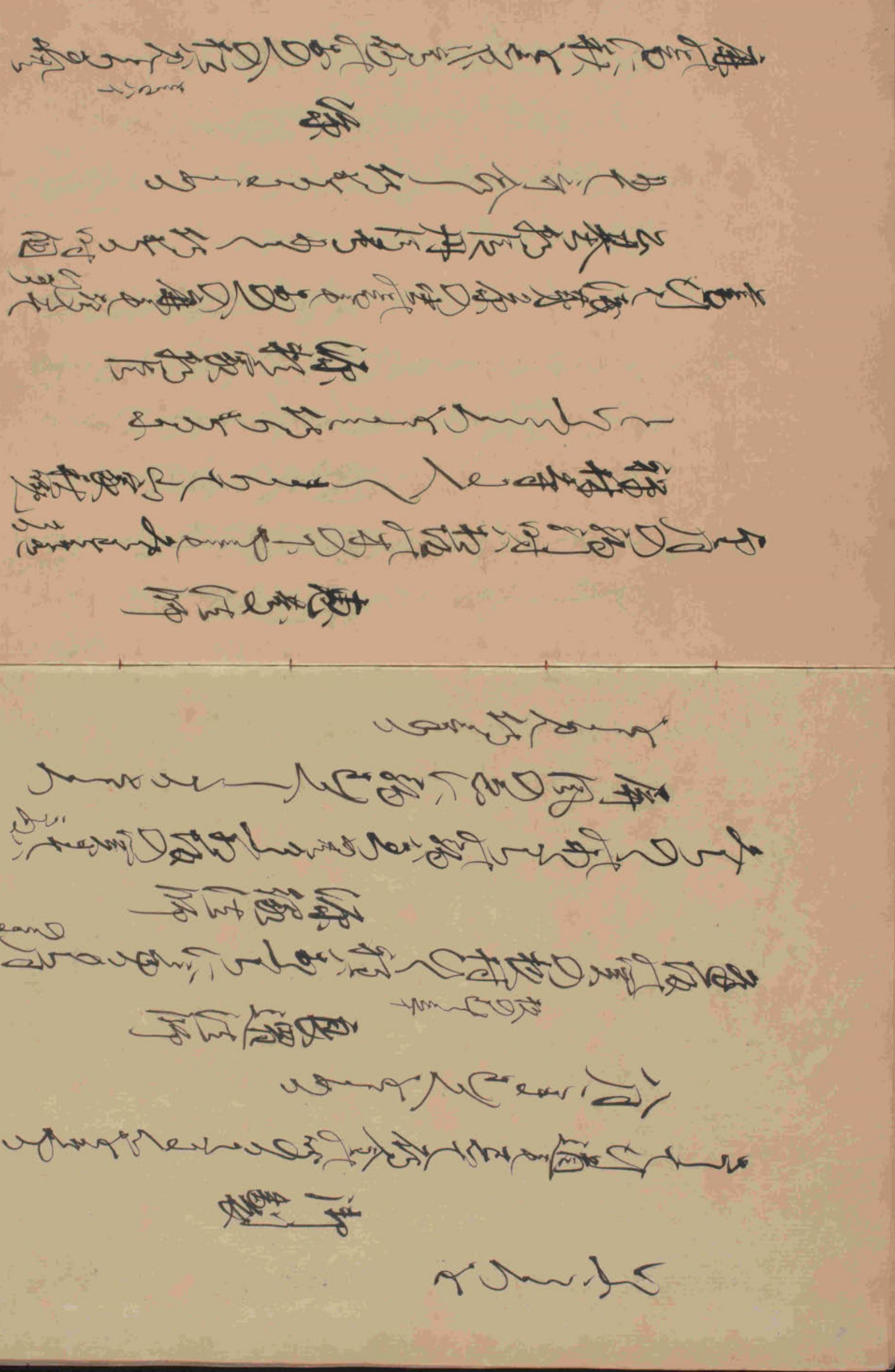
[illegible]

寛和元年八月十日内裏方令合侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]



萩藩侍廉[illegible]

御制

[illegible]

山里に[illegible]

大中臣[illegible]

[illegible]萩の[illegible]

出御門[illegible]

源[illegible]

[illegible]萩と[illegible]

影[illegible]

安[illegible]

[illegible]萩[illegible]

能因法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋雪晴を冬ぞ立ける人の心ぞ

前太宰師

麻の葉を切るに雪の降かかれば

江侍従

花の色は雪にまがふ梅の花

いづれを雪と

春の来ぬれば雪ぞ消ぬる

天台座主源心

ものの思ふ人の心ぞ

前関白師

あさぼらけ有明の月と見るまでに

吉野の里に降る雪

白妙の袖の雪は降ぬれど

月の光ぞ

月の光ぞ

新院

まき柱神さびにけり

中納言為

あ

人をまつとはなしに思ひ出の萩咲ぬれば家ぞ恋しき

八月つごもりの日萩を折て人のもとへつかはすとて

のりとも法師

[illegible]中ハたちまち[illegible]家をさして萩のとをるとて

たちまちに人の家を住ひもてゆくかな

萩のあるじうぐひす

[illegible]ハ[illegible]ゆくとていまはの時

いつくとてとゝまるせうもなし

紫式部

白露のたまをまとへる[illegible]萩をたれ

家にたちをる人のこゝ行をれかしも

栖別当

[illegible]ぬ[illegible]萩をいそ[illegible]

影[illegible]す

源時綱

[illegible]の[illegible]に新[illegible]

秋の[illegible]

菅原通家朝臣

秋風にたなびく雲の[illegible]萩の[illegible]

[illegible]の[illegible]

菅原孝標朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の妻ぬすみのりてに女郎花の行ち
とゝ見行ぬ

堀川右大臣

如是我聞とうせんの行ゝ多勝の物ゝ
うへとものゝことゝもお裁りにのゝ
まゝいそゝりもつゝまつゝ

梅の別長

女房花のゝ
影ゝ

前律師宗遍

秋風ゝ遍ゝ
ゝ

天暦清時の御屏風ゝ
ゝ人の角ゝ

清原元輔

牡の
毎家ゝ秋ゝ

御製

宿ゝ
ゝ

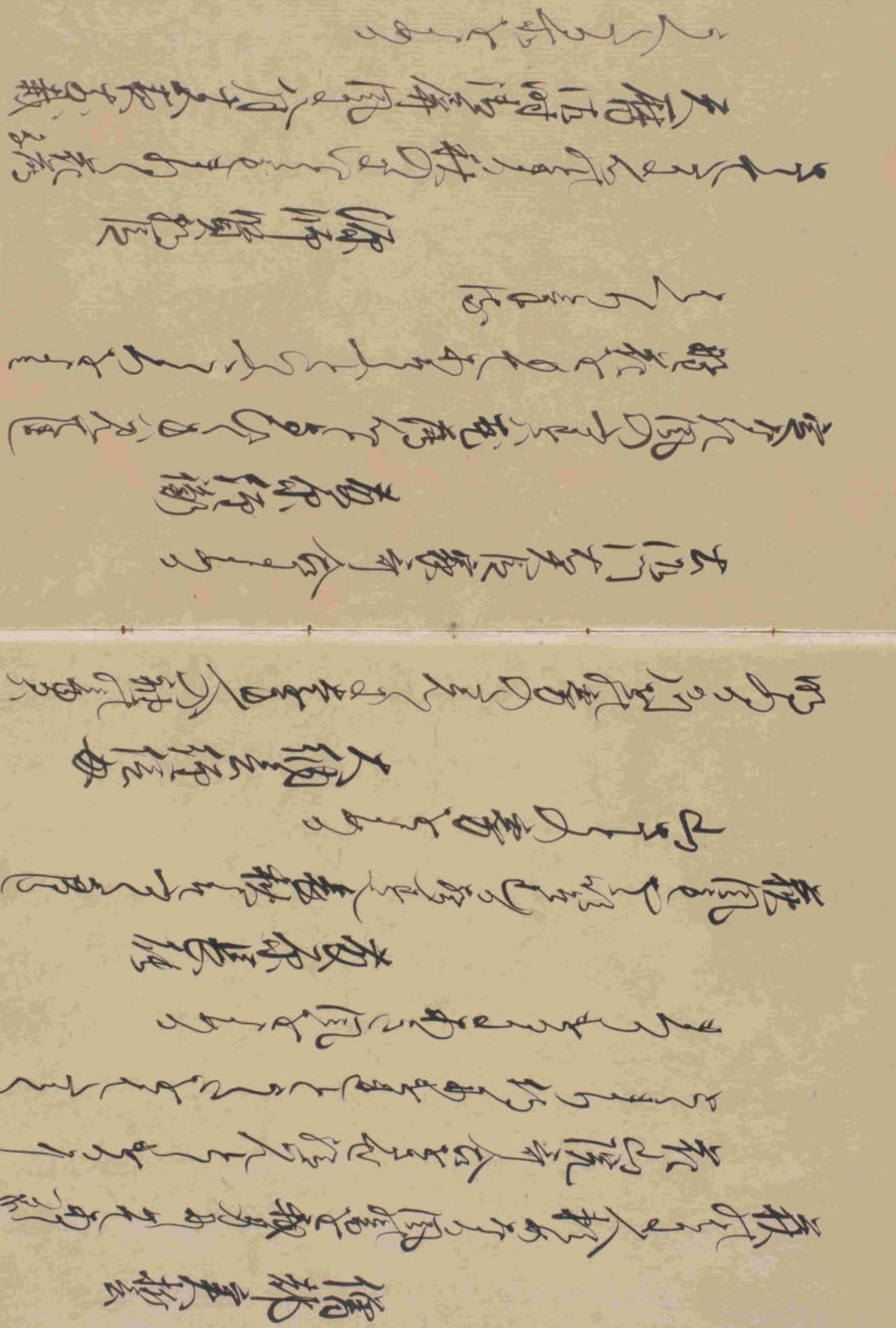
源道湖

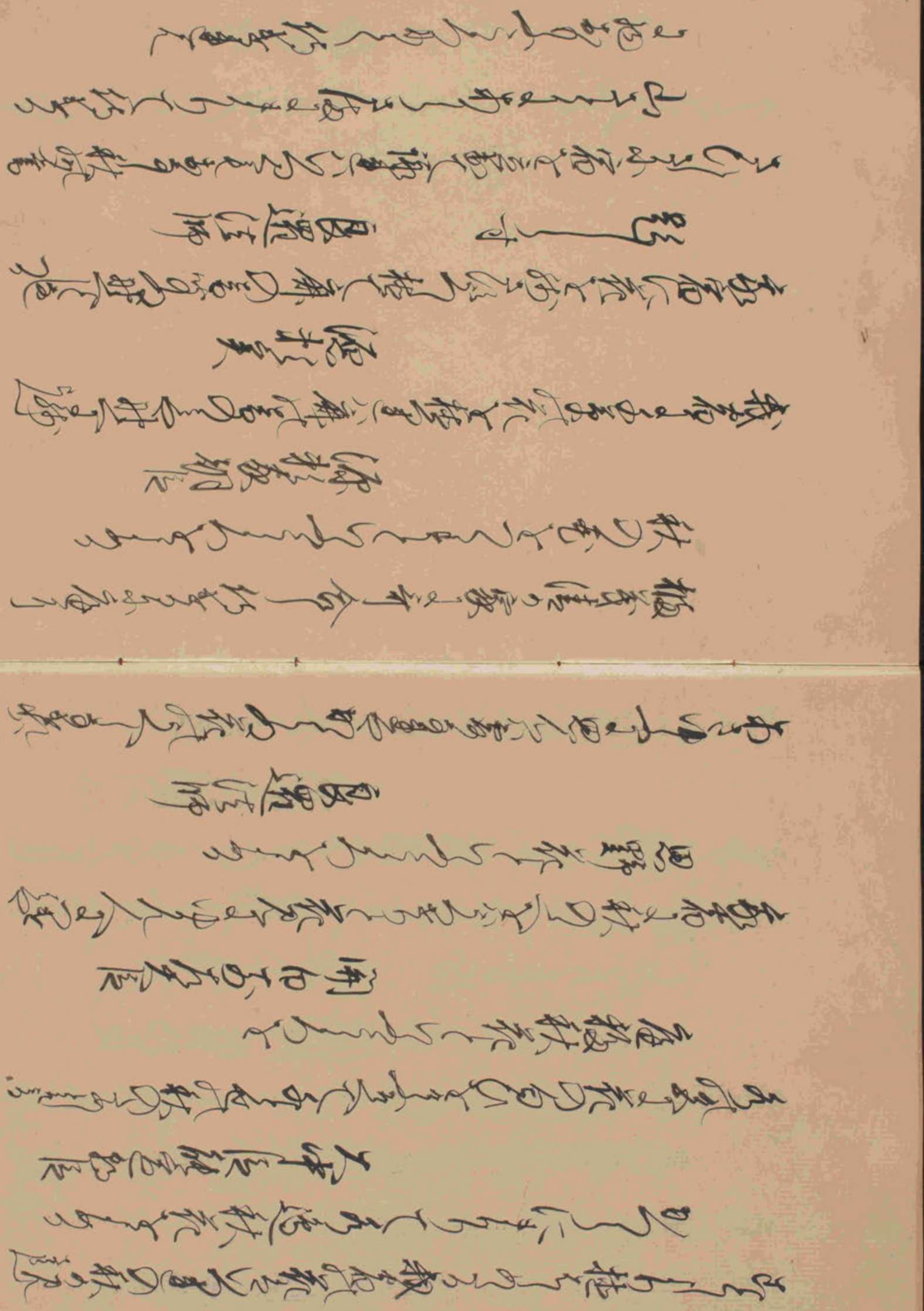
ゝ人の
わゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]





後拾遺和歌集第五

秋下

[illegible]

中納言資綱

[illegible]

伊勢大輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里に秋の来ぬるをあらしふく風の音
にぞ聞ける

大炊御門

源道潤

人をこそ思ひ絶えぬれ山里に秋ぞ来ぬる
永義四年四月裏行合

堀川右大臣

いかばかり思ひ絶えぬる時雨かな
宇治山にこもりてのちの秋の夜

藤原行衛

とぶらひ侍りける

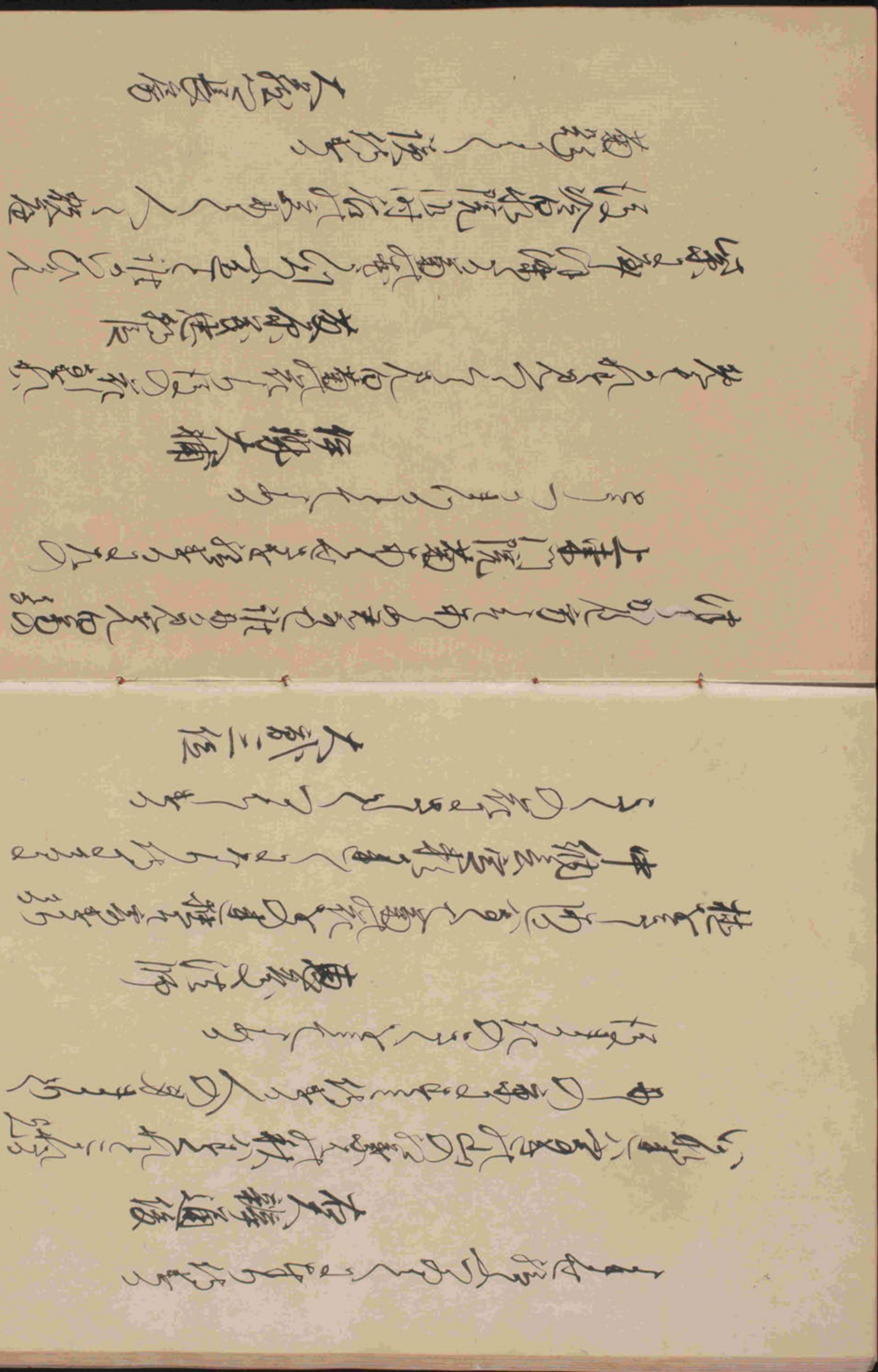
日をかぞへ月を待ちつる秋の夜の
長恨寺にはこもりてのちの人のとぶ
らひ侍りける

上東門院中将

こがらしの吹きまがふ秋の夜
屏風の色なる山の紅葉

藤原為房朝臣

月をこそ思ひ絶えぬれ山里に
ゆきちかくとぶらひ侍りける



[illegible]八重咲菊の重に雪の八重のとまるやうに

菊花あり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤染衛門

[illegible]

天暦御時屏風に

[illegible]

[illegible]

清原元輔

[illegible]

屏風の

[illegible]

[illegible]

大中臣能宣朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

良暹法師

[illegible]

[illegible]

菅原[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我のこゝろと思へ[illegible]

[illegible]

中納言宗形

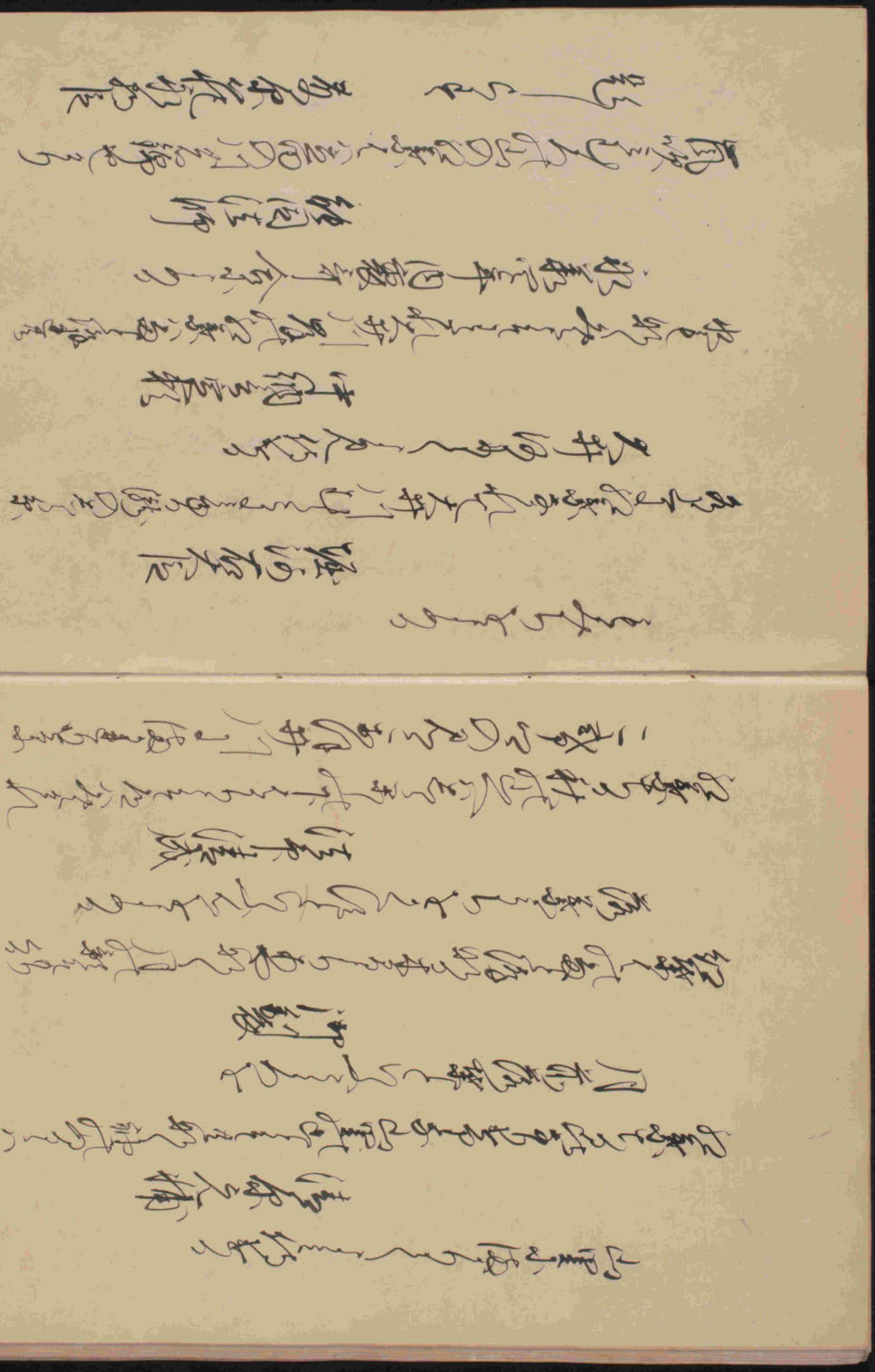
永[illegible]年四[illegible]

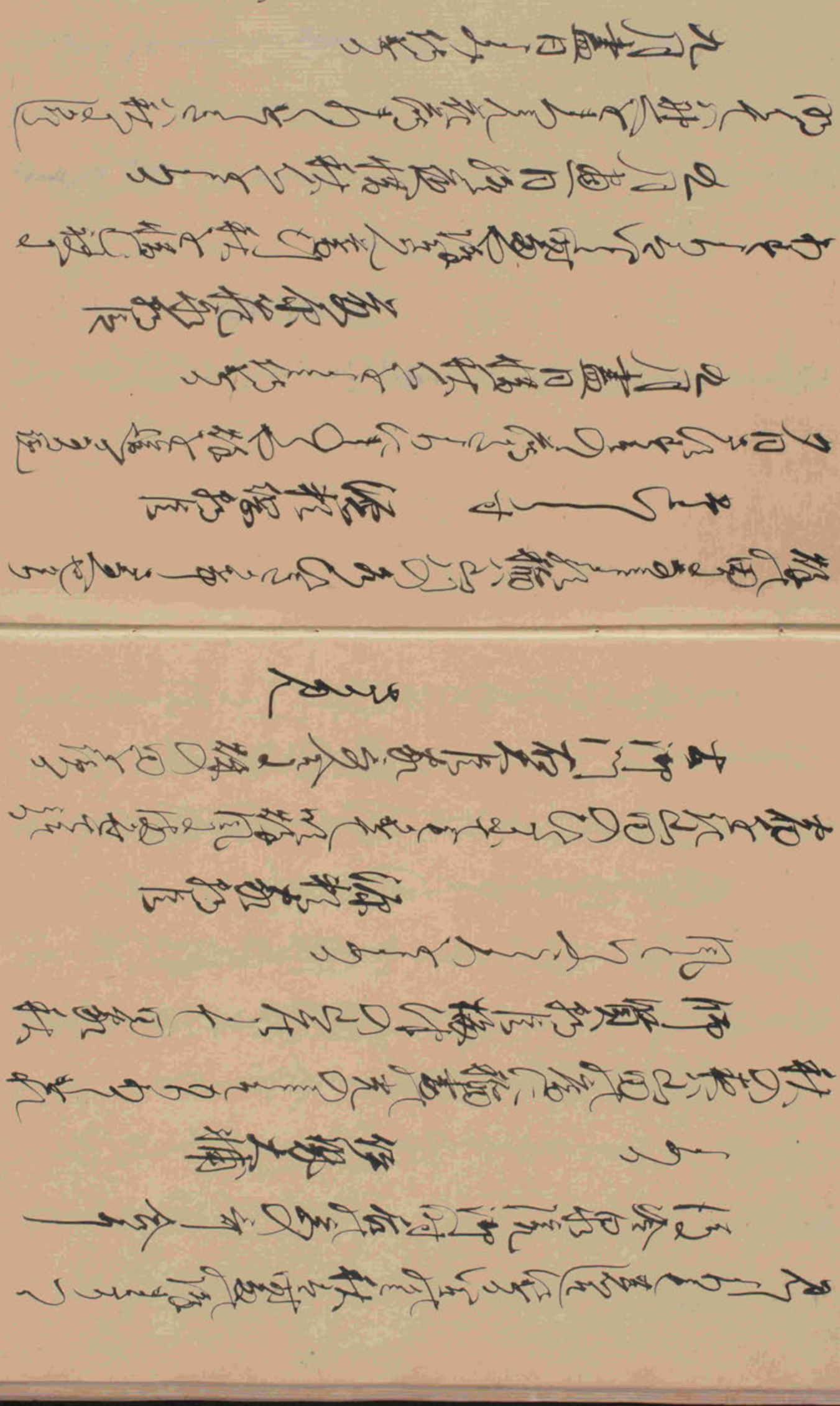
中納言資綱

[illegible]

[illegible]

[illegible]





後拾遺和歌集第十

冬

十月のはつかのころに大井川
まかりてうたうたはせけるに

前大納言公任

あづまの紅葉をれば大井川
十月はつかのころにぞ見る

大備前守源兼

寛保三年十月今上みかどのくるる
ふるまひをもとめさせたまふ

御製

大井川のうたはせたまふを聞
くに

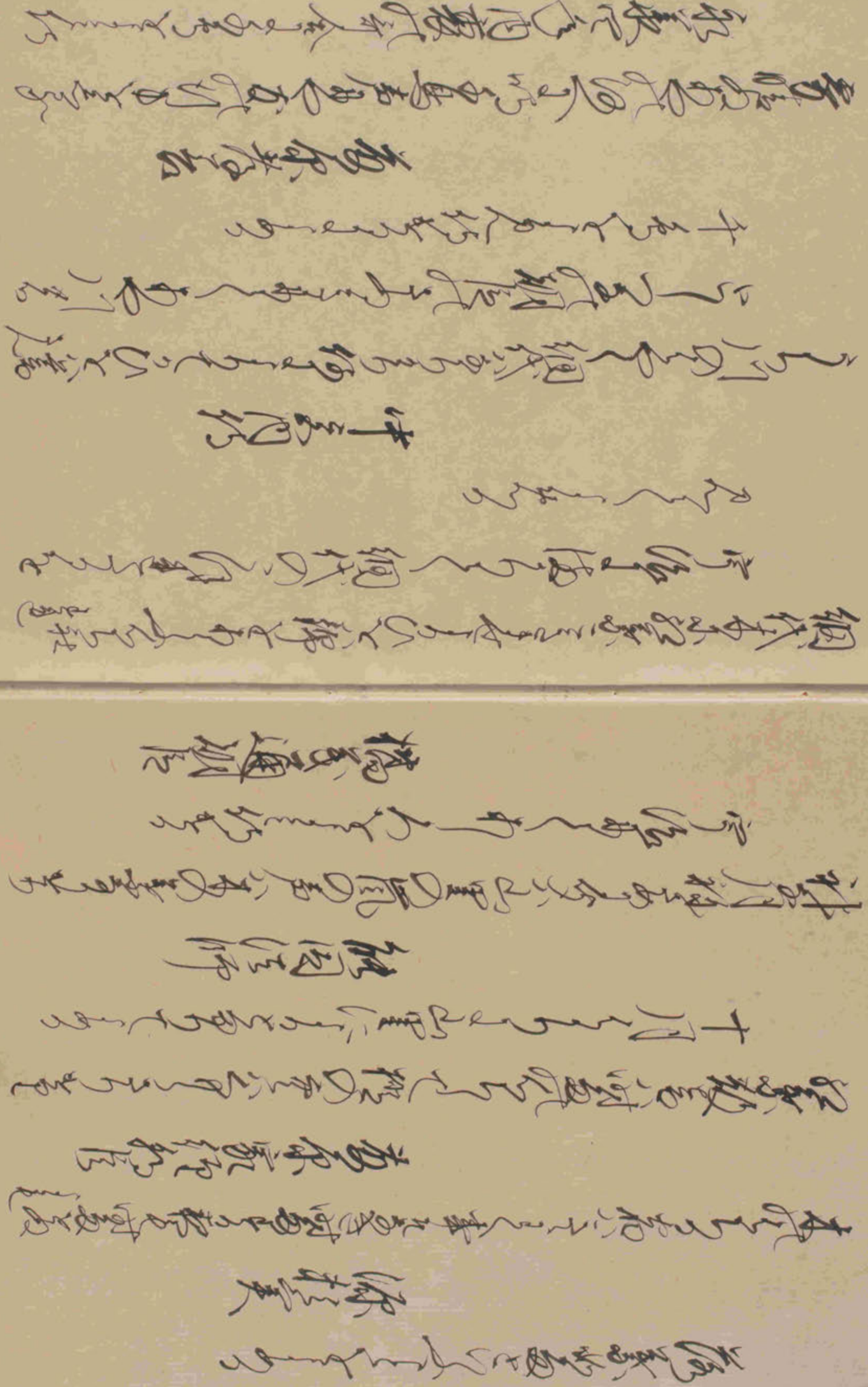
大井川のうたはせたまふを聞
くに

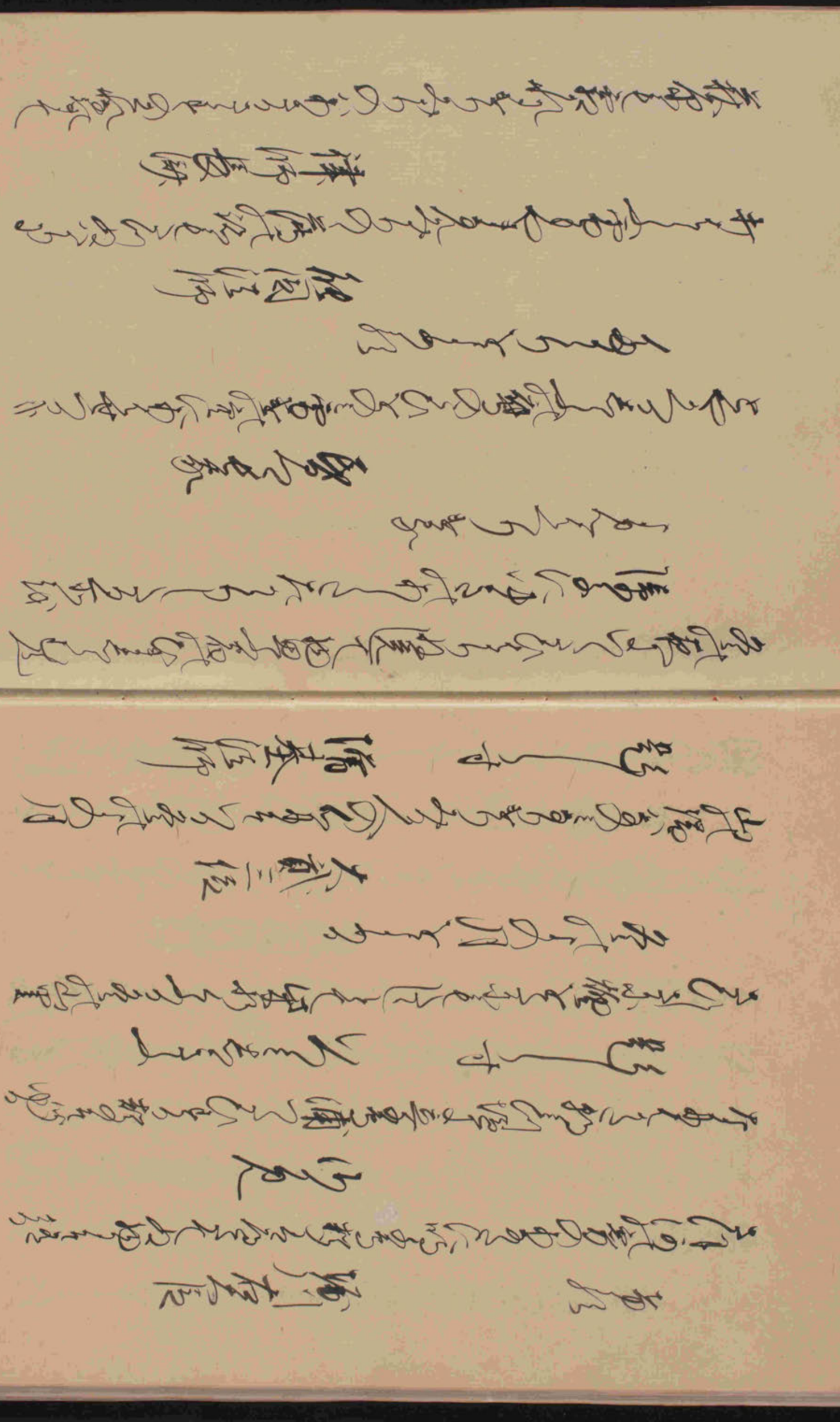
藤原為房朝臣

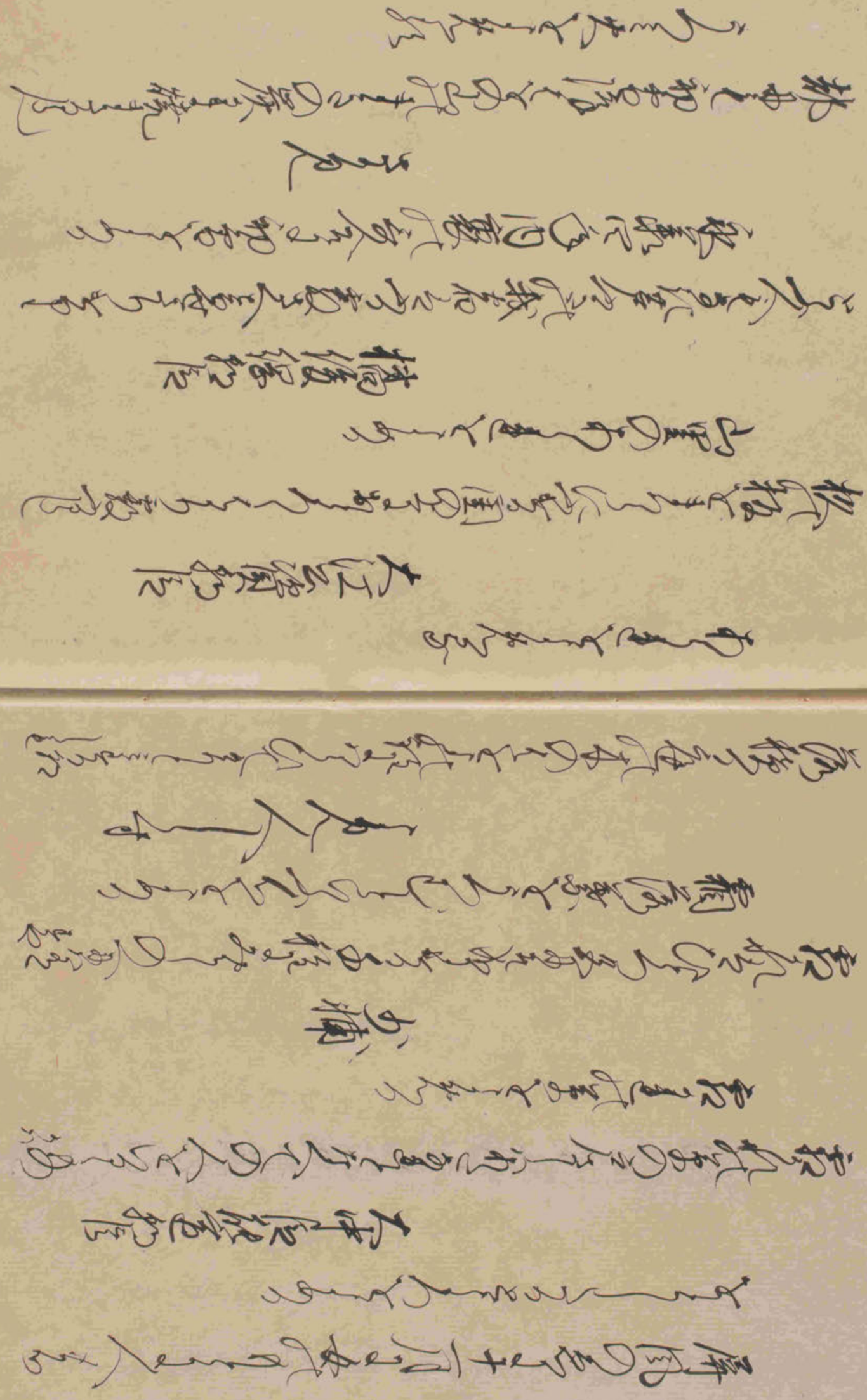
春雨降りて時鳥
山里に時鳥とうたはせ

永縁法師

神無月のころ物詠
ちらしたるうたの







[illegible]少[illegible]ちらくちらす雪を花と[illegible]
法殿或[illegible]の[illegible]の家[illegible]の
雪をいとをくるまとをくるまとをくるま

[illegible]

津守国基

屏風の[illegible]雪降りて[illegible]
[illegible]

[illegible]

赤染衛門

道雅三位の八条殿家のさとの山里の
雪ふりつもりたりけるを[illegible]

雪降る道[illegible]山里は我らを人こそ[illegible]

源頼実朝臣

法師になりていひもしらぬ雪の
[illegible]

伝寛法師

思ひ[illegible]山路も[illegible]
[illegible]

[illegible]

天暦の御時に屏風のえに十二月ゆき
[illegible]

清原元輔

[illegible]

入道太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾遺和歌集第七

題

天暦御時屏風所立春

源順

きさらぎのかすみにたちそめしかぜはいとのあらぬなりけり

入道摂政の時屏風のうた

春の日のうらうらとのどけきかぜにのりてはるのきたるなりけり

平兼盛

はるのきたるかぜにはるのうらうらとかすみたちそめにけり

あきの屏風のうた

ひぐらしのなくやまかげのたまかるのあきのかぜふくこのごろかな

源道隆

東三条院四十賀し給ける屏風の歌

てをりこしかぜにまかせてちりまがふはるのはなのかげにこそなれ

前大僧正明尊の千賀し給ける家法

おきなびとたちのつえにはるのかぜにまかせてちりまがふはな

前律師雲遍

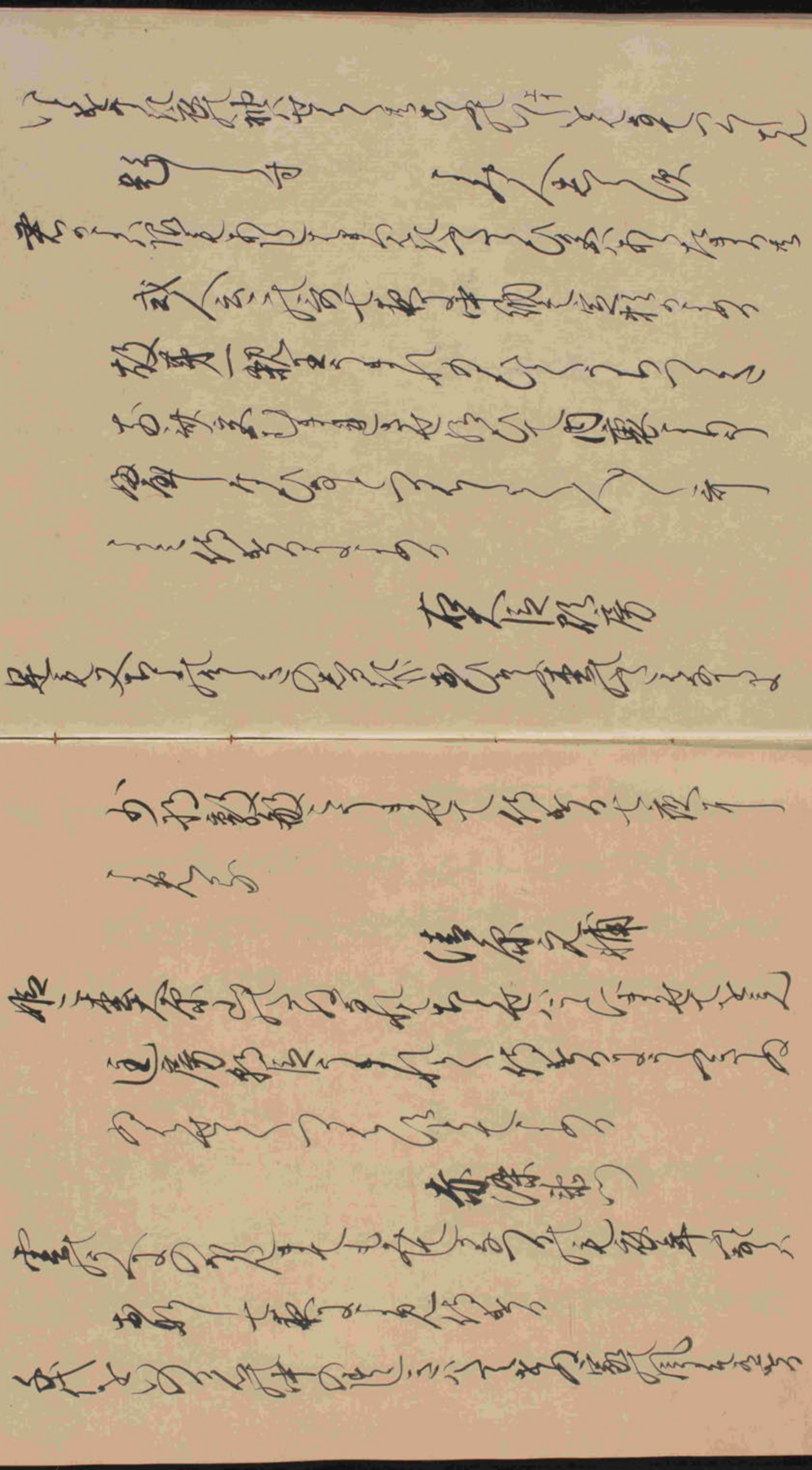
月夜の御屏風いのちながき人の家に
まつのあるかと

平道國

春秋をたゝて年つもる松なれとつゝ式年とうゝて
屏風のもとうゝ人のうゝとまつてひさ
あるかとゝ

源道澄

一のゝ式生のもとゝ式ゝ式ゝ式



故実一親王にいらせらるる関白前
大臣うち参らせられる事ありしかども
まうけ給ふ事なくうちあもし
給ふ時いとたまりなく給ふをかんく
しまれ給ふ

千代ゆく三葉の松のさきそめて社為ふ久しかるひさしの
ためしをも今思ふ院御製
しるせるあひらかな

花山院御製

思ふ事今ハ為ぬ為ぬ花さくらあるとも見へて
侍ふ三条院かくこの歌をもる時今上あき
なくあるまきるゆりるまてわるく
乃まりるせられて明月をみるとて
くるせるくるくるる人侍もる

伊勢大輔

君こそ花ちるも思ふて方代のうちひとのこゝろと紅
葉

国院御歌

思ふ人侍ふ人新よ侍ふ
しまこのあさ侍ふとゝるのまいて行て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明しくれなるものなりやとこれのちとを思ひまし
三条院みこと申すとき時常日の陳
の所会りしかり

大江匡房卿

君の代ながらへてひろまれる白雪の明るかぎりまで
兼盛二年四月裏所会ありしかり

民部卿俊信

君の代は千歳とぞ思ふ神風や五十鈴の河の末まで
寛治六年大嘗会の後の御会
一行ありしかり

菅原為盛女

君の代は白雪ばかりいのりけり
永兼四年四月裏所会ありしかり

紀内法師

明しの山雪積れば君の為ちとせ経ぬる人
寛和二年会ありしかり

式部大輔資業

君の代は白雪ばかりちとせあり人は千歳
冷泉院けんしのくらしもせずして
ちとせいまてうくをはりてくらしもせずして

[illegible]

信濃国善光寺御[illegible]

東三条院より[illegible]

[illegible]

小大君

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾遺和歌集第八

別

[illegible]

恵慶法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

別れのことを武蔵春とに花の散と思ひをとせて

ちのりよ越行よりかりそめあり

の行ち原為氏卿

きく

藤原惟規

藤原実方朝臣の行を聞て人々に

の年(月)のきさらぎ人よりこれあり

つくしたくく

藤原長能

三月ちりはくこの中藤原為忠

藤原為忠

くちり行きをふかあるこのくく

ふちはえ行ちるもしをひ生

くちりこそ

選子内親王

約束ことをふかあり年道といのりをそ藤原為忠

ち

藤原為忠

初ちをけ行ち藤原ふいき社思ひ風ち

人のをとをふかあり

藤原道信朝臣

作のことを我をもつの世年に行行いをとをとん

入道摂政わうこう行きうこう大殿と道綱
の母にかひ行くに人のくま
うくとんとくんとあるくて
女はらうよいまとく行きう

友信倫寧朋信

君とのみ行むと猿ゆくんあ行まとくあるゆく
ゆく

入道摂政

我とのみ行むいとく行まれまとのうとを云社あ
はくあるとく行きうのうんを
家わうの人のうとにつとくきう

陽園法師

此とかの月新とハ思ひ出よ秋風つく報をうまて
源相清新長ハんうのうとそとく又肥行う
よくうくく行きうといそうちの
雨ふうまとくなくてうとを行う

桐横

唐くれうをうふまうんまれ雲ういさの松も
新雲つまふかりてくう行きうる人の
うくうくつくきう
いくうき新命之外の神ハまもれおくきう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大江為言

命ぜられ候ほどの事

[illegible]

つたへ申候

中納言宣房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

慶範法師

世をいとはしとて出家をしたる人の
はてしなきのちのよのためにとて
なにとなくはかなき法師に
なりぬるこそ中々にあはれなるわざ
なれ

良勝法師

名をおもんじ命をおしむとは
仏道をこそ
なにとなくまことしからぬ
ものとおもひなしてこそ

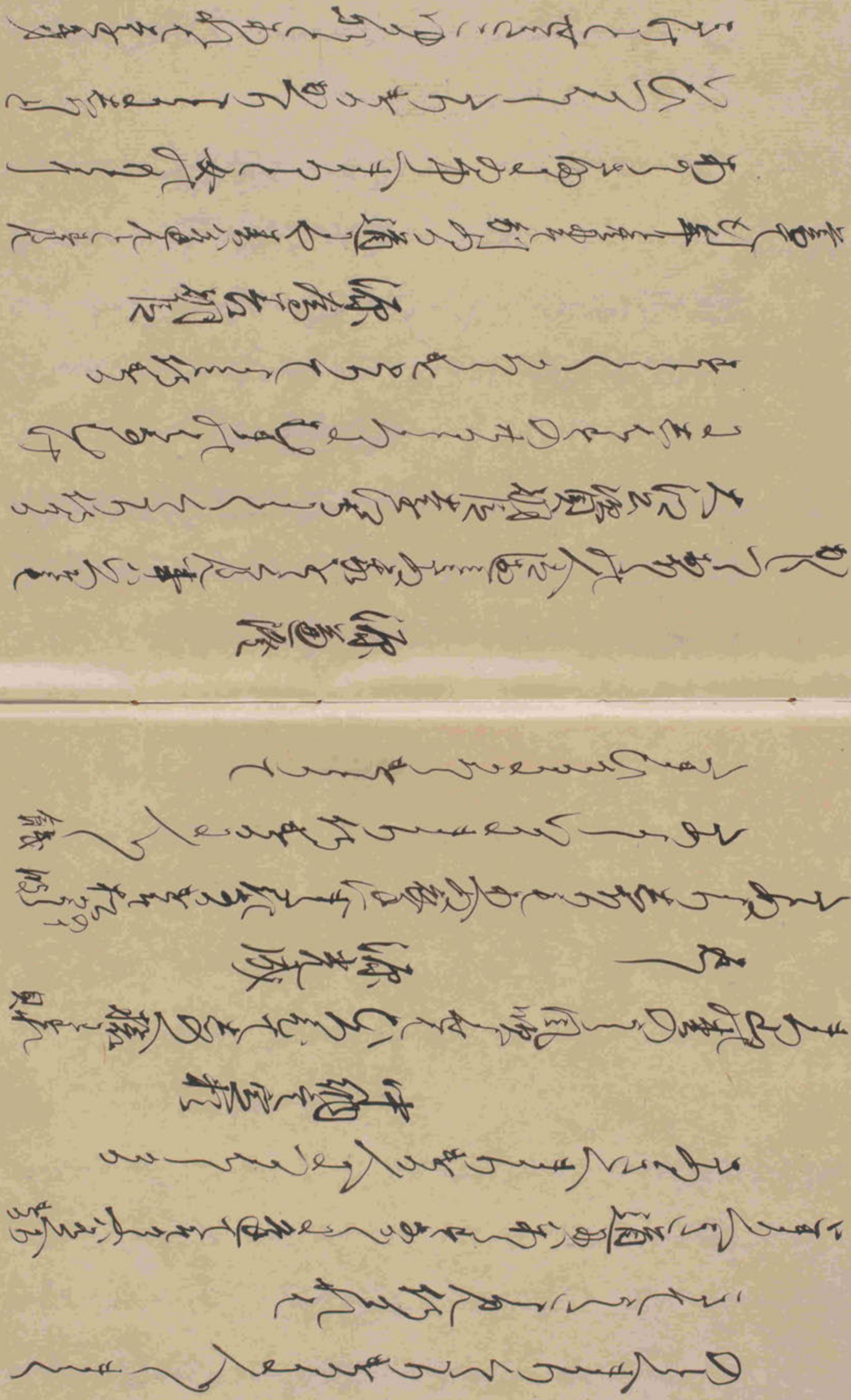
春の花散る月をなげくとて
仏道法師いとけなくもの
はかなくてまことしく
あはれなるものの
思へる

源道長

思へる
ものとて
ひとりの人のみち
行きに

源道湖

思ひ出でぬ



[illegible]

祭文捕釈

[illegible]人[illegible]

橋道貞主（是定イ）

[illegible]

赤染衛門

[illegible]

[illegible]

中原相成

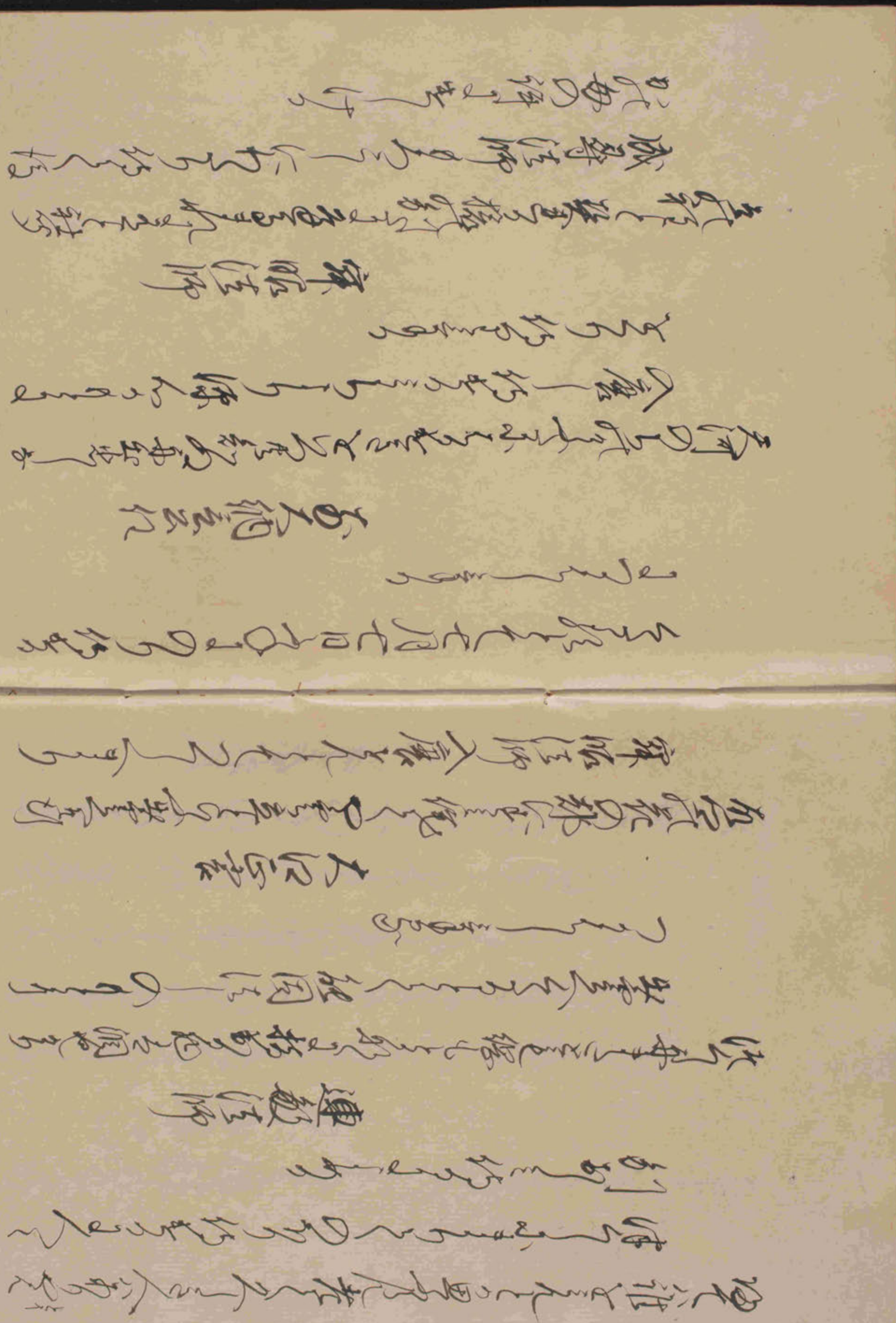
[illegible]

祭文捕釈

[illegible]

紫式部伝

菅原孝標



後拾遺和歌集第九

羇旅

いづ山もりの行きもりみちもとも
井ゐのくさとをとこと作りきり

堀川右大臣

相坂の関とは名のみとなりぬれど井ゐの水とをえこそとまらぬ

十月ちりにたりける時に
きりのあるとこそ見えけれ
ちりぬ

行遍法師の家の前を通ることを言ひたりける道

前大納言公任

中納言宗形

言ひそめしこと言ひ初めの道を行遍
くまの道ならぬ道にいる寺あれば
それをもまれまれのやどとたのもしけれ
らんらん

花山院御製

橋の元にて梅とのりあるを見て
くまのへまゐり侍りける道
のくまとをんらく

懐円法師

都にて明石浦と云所にて海月
船出まりうらにあくる月をみて詠る

山風にうらかなしそ思ひ寄なれぬ月をも
舟のうらにかりねとてうらをも
こそ侍らめ

[illegible]

[illegible]
[illegible]の国へまかりくだりける
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]山[illegible]

七月つゐたちの日[illegible]

[illegible]

[illegible]

源重之

[illegible]

[illegible]

大江房雅卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花山院御製

[illegible]

[illegible]

中納言資綱

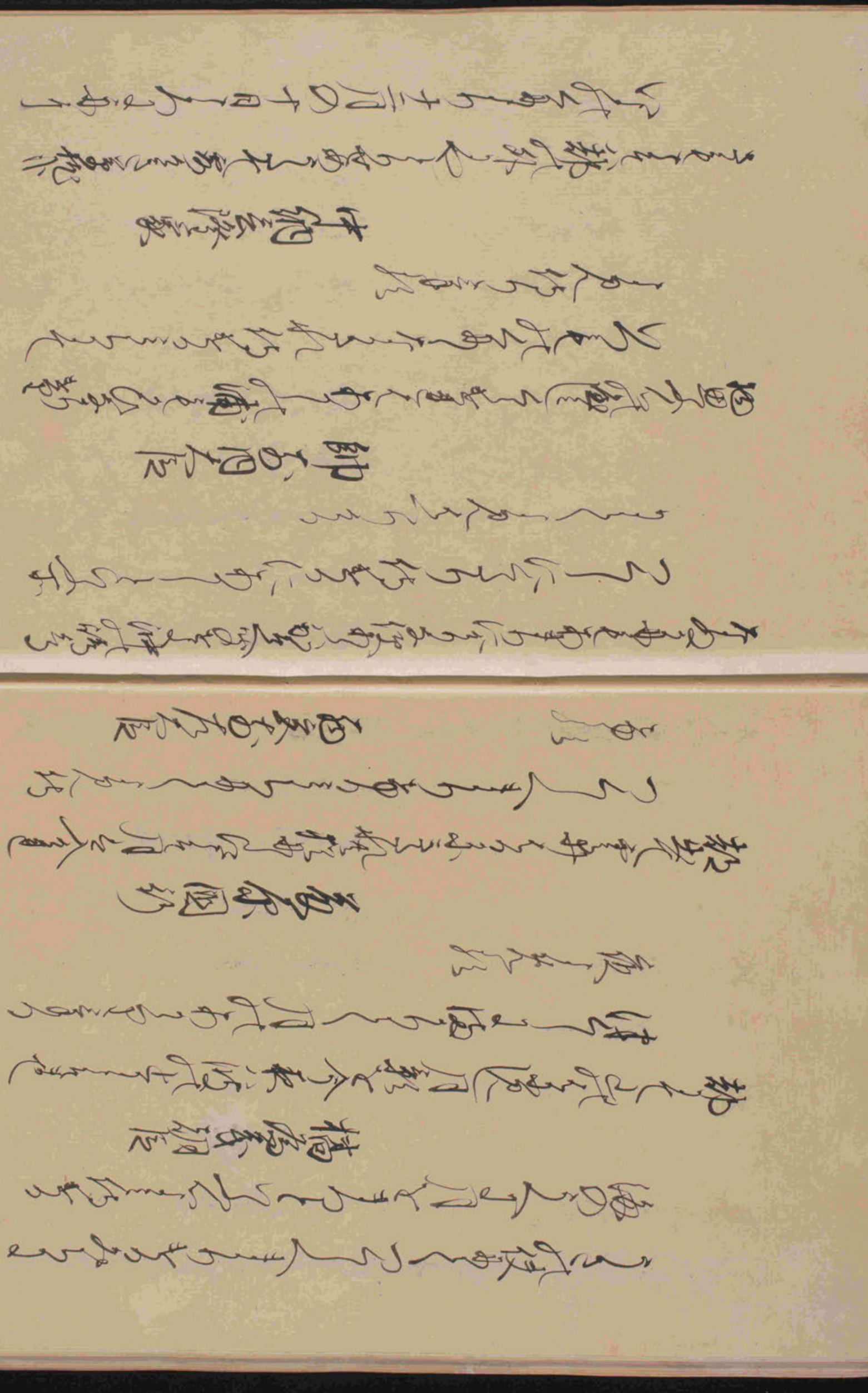
[illegible]

清輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]



のやまくいさゝはらのかりきりす

武蔵大掾資業

いそなつ毋ゝ玉ゝつゝ年ゝ貌小花ゝ数の春ゝはゝく
はゝてゝしらのかりきりすみちゝるゝやゝゝ山
としゝ玉ゝゝゝくゝゝゝ

後拾遺和歌集第十

哀傷

一条院の御時衣笠入れ給へる板に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

参議院の法曹[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小行長命下知

[illegible]社出[illegible]

二月十五日の[illegible]

のさうそうの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三条院の法[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]一條院[illegible]中宮の月[illegible]

のち朱雀院[illegible]きさき弘徽殿中宮

八月[illegible]

きり[illegible]

けり

いとう君[illegible]

左衛[illegible]成[illegible]

いとうとのわつ[illegible]ひなとをんなて師

貫和[illegible]

[illegible]

小友を

[illegible]

霊[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝ時雨る風の吹あれ歌の中山

あるがなくなりて山寺に行もう人さま

りとつゝとゝ

[illegible]人しゝ寺

山里のゝ[illegible]

生駒の雑の[illegible]

[illegible]

[illegible]

四[illegible]人の出[illegible]

[illegible]

生駒雑

出[illegible]

高浩成様[illegible]

[illegible]

中文四行

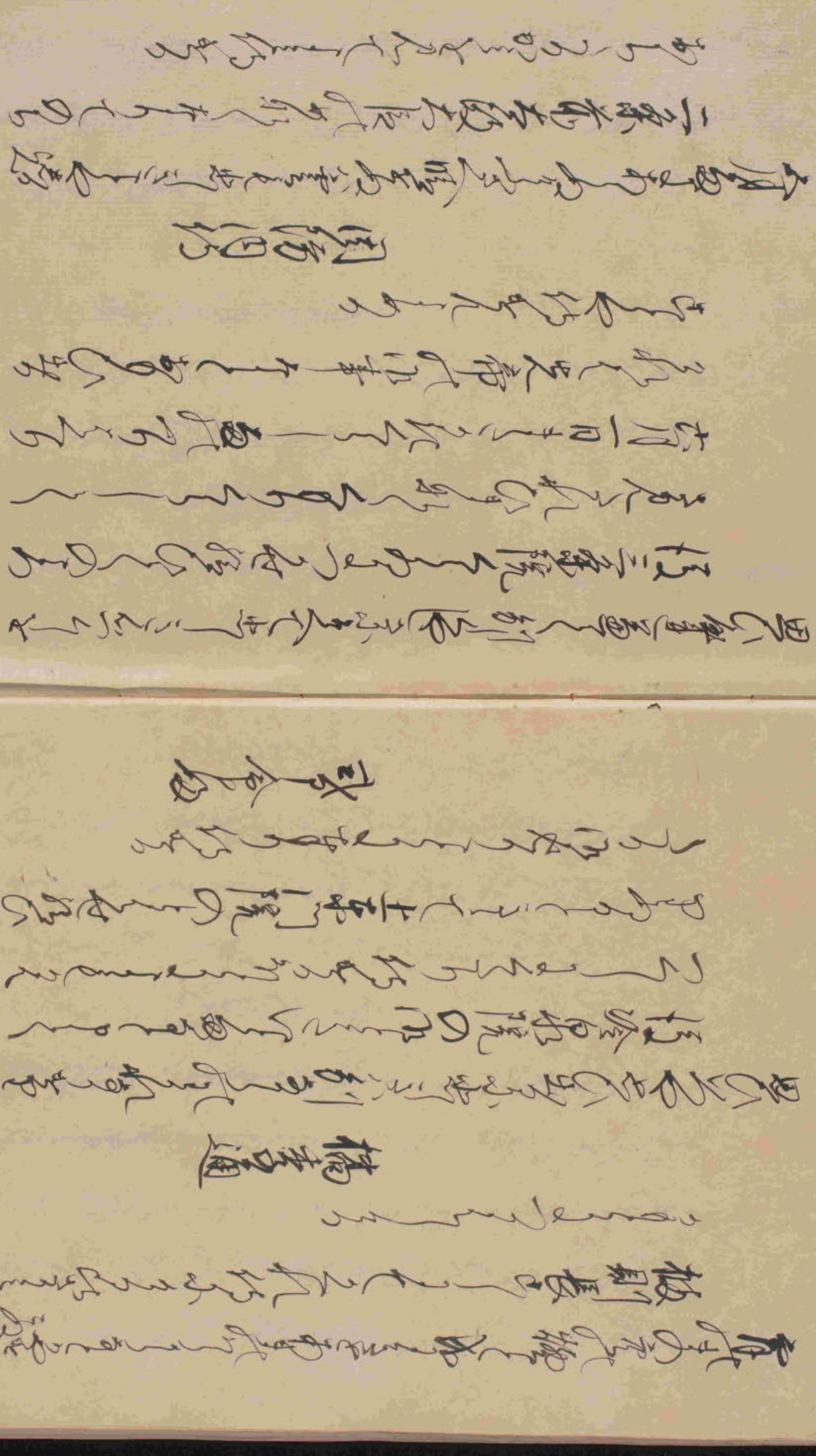
[illegible]

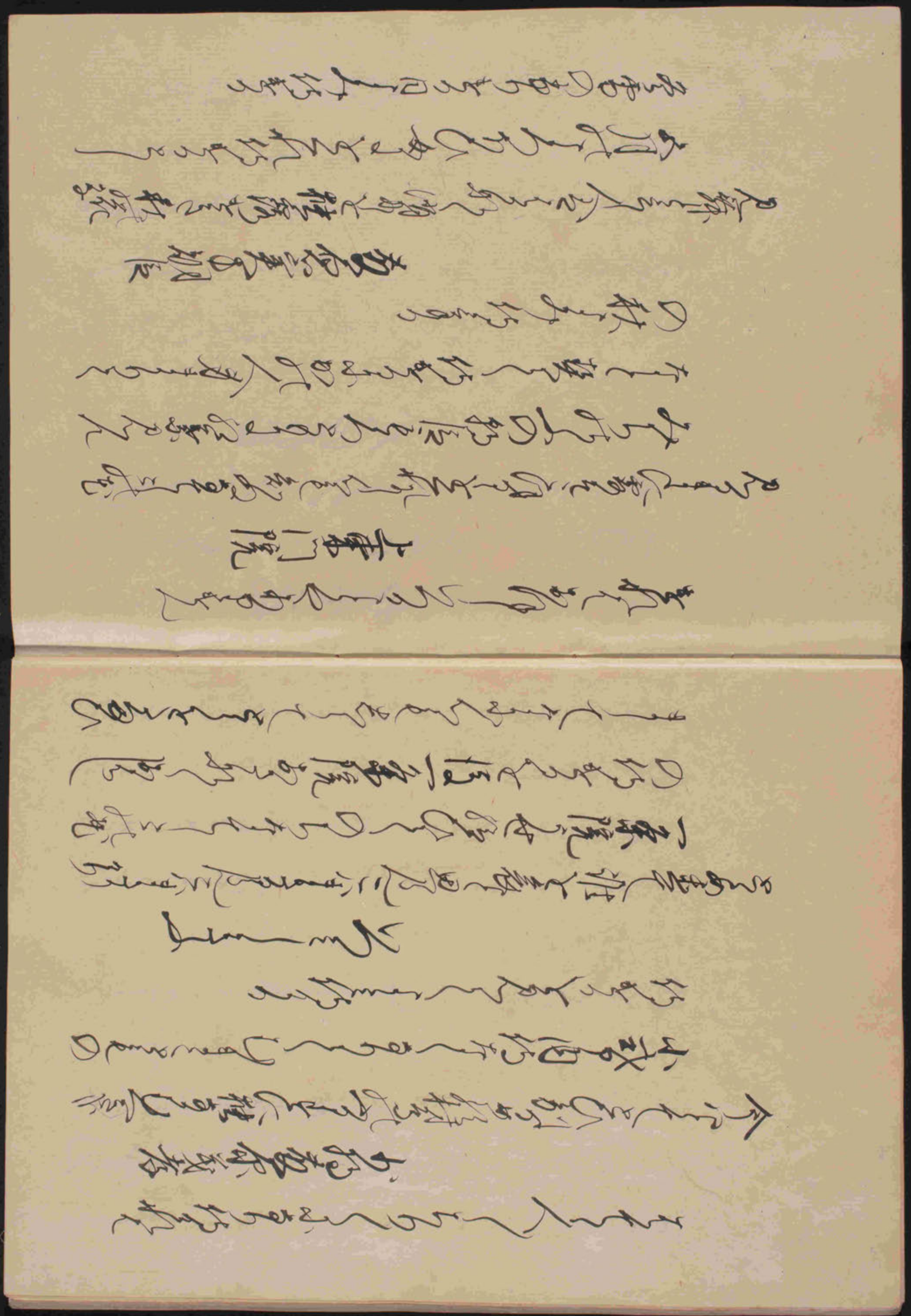
清原元補[illegible]

[illegible]

[illegible]

源頃





[illegible]

大江匡房卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大江為基

[illegible]人[illegible]

教道親[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大貳三位

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源道濟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢大輔

[illegible]

康資王母

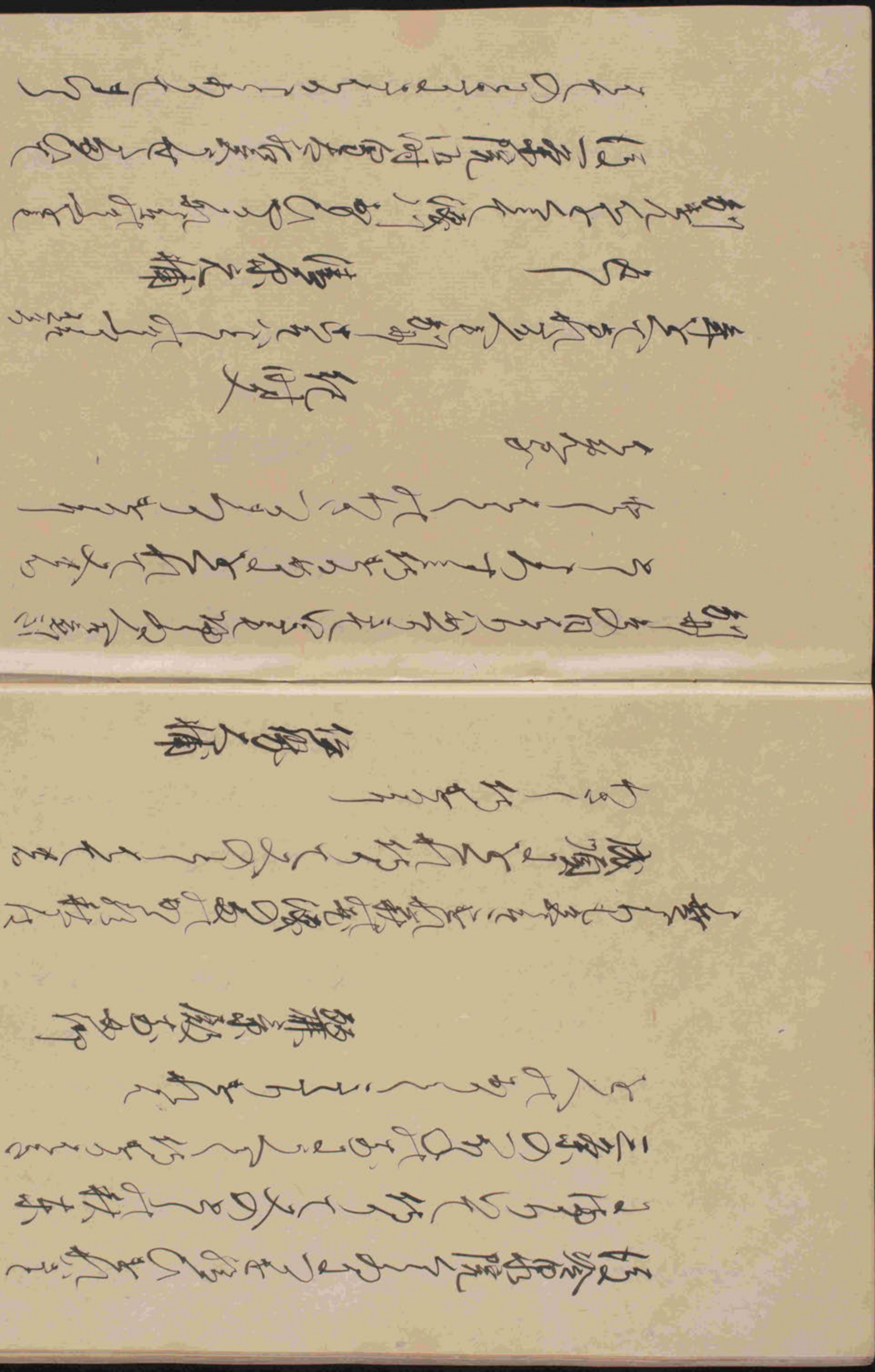
[illegible]

義孝三位

[illegible]

一条院内侍

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

生駒雅

いかなるあやまちにてかの殿を
追籠まいらせられてのちいかなる
行方をしらずなりぬるとかや
いとあはれなる事なりとぞ
もはべるとぞ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

132X
104
16